船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

相續開始前一年內ニ本法施行地內ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地內ニ在ルモノト看做ス

第三條　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課

二　被相續人ノ葬式費用

三　債務

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財產ニ係ル公課

二　其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス（明治四十三年法律第四號改正）

第三條ノ二（大正十五年法律第十三號削除）

第四條　相續財產ノ價格ハ相續開始ノ時ノ價格ニ依ル

地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス（大正十五年法律第十三號改正）

一　地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　二倍
殘存期間三十年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　三倍
殘存期間五十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定ナキモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　五倍
殘存期間百年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　七倍
殘存期間百年ヨリ長キモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　十二倍

二　永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下ナルモノ	永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　二倍
殘存期間三十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定ナキモノ	永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　三倍
殘存期間五十年以下ナルモノ	永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格　五倍

三　有期定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

四　無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス

五　終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス

二十歳未滿ノ者　十年
三十歳未滿ノ者　八年
四十歳未滿ノ者　六年
五十歳未滿ノ者　四年
六十歳未滿ノ者　二年
六十歳以上ノ者　一年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保險料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條　條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利、信託ノ利益ヲ受クヘキ權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス（大正十一年法律第四十八號改正）

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條　課稅價格カ家督相續ニ在リテハ五千圓、遺產相續ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス（大正三年法律第二十二號及大正十五年法律第十三號改正）

第七條　軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷痍者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス（明治四十三年法律第四號、大正三年法律第二十二號及大正十五年法律第十三號改正）

家督相續稅率			
課稅價格	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ入夫ナルトキ	相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
五千圓以下ノ金額	千分ノ五	千分ノ六	千分ノ八
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ六	千分ノ七	千分ノ十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	千分ノ八	千分ノ十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八	千分ノ十	千分ノ二十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十五	千分ノ二十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十	千分ノ三十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十

遺産相續			
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ五十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ六十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ七十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ六十	千分ノ八十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ七十	千分ノ九十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ八十	千分ノ百
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ九十	千分ノ百十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百二十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百十	千分ノ百三十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十	千分ノ百二十	千分ノ百四十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百三十	千分ノ百五十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十	千分ノ百四十	千分ノ百六十

課稅價格	稅率		
	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
千圓以下ノ金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十

五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ五十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ六十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十五	千分ノ七十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十五	千分ノ八十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十五	千分ノ七十五	千分ノ九十五
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十五	千分ノ八十五	千分ノ百五
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五	千分ノ九十五	千分ノ百十五
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十五	千分ノ百五	千分ノ百二十五
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五	千分ノ百十五	千分ノ百三十五
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十五	千分ノ百二十五	千分ノ百四十五
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十五	千分ノ百三十五	千分ノ百五十五
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十五	千分ノ百四十五	千分ノ百六十五
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五十	千分ノ百六十	千分ノ百七十五
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十五	千分ノ百七十五	千分ノ百九十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ百九十	千分ノ二百十

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

第九條　相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ對スル稅率ヲ適用シ相續稅ヲ課スルコトヲ得

相續人アルコト分明ナラサルトキハ稅率ノ最高キ相續人ニ對スル稅率ヲ適用シテ相續稅ヲ課ス

前二項ニ依リ課稅シタル後相續人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ稅金ノ差額ヲ追徵シ又ハ還付ス

第十條　相續稅ヲ課セラレタル後五年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續稅ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ課セラレタル後七年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス（明治四十三年法律第四號改正）

第十一條　相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以內ニ相續財產ノ目錄及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ

相續カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相續人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以內ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條　戶籍吏左ノ事項ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

一　死亡又ハ失踪

二　戶主ノ隱居又ハ國籍喪失

三　戶主カ婚姻又ハ養子緣組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト

四　入夫婚姻ニ因ル女戶主カ戶主權ヲ喪失シタルコト

五　戶主タル入夫ノ離婚

第十三條　課稅價格ハ政府之ヲ決定ス

課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

第十四條　相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ申立テ再審查ヲ求ムルコトヲ得

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス

第十五條　前條ノ請求アリタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

審查委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　課稅價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條　相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ

提供シ七年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得（明治四十三年法律第四號及大正十五年法律第十三號改正）

前項ニ依リテ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第十八條　審査ヲ求メ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ稅金ヲ納付スヘシ

第十九條　相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ相續稅ヲ納付シ又ハ其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　相續財産ヲ以テ相續稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始前一年内ニ被相續人ヨリ本法施行地ニ在ル財産ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續稅ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　相續稅ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條　相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及稅金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ヨリ徵收スルコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ徵收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第三項ノ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　左ニ揭クル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動産及船舶以外ノ財産ニ付爲シタル贈與ノ價格カ千圓以上ナルトキハ遺産相續開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス（大正十五年法律第十三號改正）

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺産相續ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十三條ノ二　信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ第三條、第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動産又ハ船舶ノ歸屬スヘキ權利ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス（大正十一年四月法律第四十八號追加）

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ委託者ノ直系卑屬ヲ受益者ト爲シタルモノト看做シ其受託者ヲ相續財産管理人ト看做ス（大正十五年法律第十三號追加）

第二十四條　第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰

金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ稅金ヲ徵收シ其ノ罪ヲ問ハス（明治四十三年法律第四號改正）

第二十五條　第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ（明治四十三年法律第四號改正）

第二十六條　府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十三年法律第四號）

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附　則（大正三年法律第二十二號）

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附　則（大正十一年法律第四十八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年一月一日ヨリ施行）

附　則（大正十五年法律第十三號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

○相續稅法施行規則

（明治三十八年三月二十三日勅令第六十八號）

第一條　相續開始地ノ稅務署ヲ以テ相續稅ノ所轄稅務署トス

相續開始地カ相續稅法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相續財產所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス相續財產カ二箇以上ノ稅務署管內ニ在ルトキハ其ノ主タル財產ノ所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條　相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅法第十一條第一項ニ定メタル期間內ニ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財產目錄及相續財產ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

一　被相續人ノ氏名

二　相續開始地

三　相續開始ノ日

四　家督相續、遺產相續ノ區別

五　被相續人カ相續開始前一年內ニ相續稅法施行地ニ在ル財產ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財產ノ價額及受贈者ノ住所氏名

六　相續人ノ住所氏名

七　相續人ト被相續人トノ續柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セサルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セサル理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

相續稅法第二十三條ニ依リ遺産相續ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條　稅務署長ハ相續財産ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四條　課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第十四條ニ定メタル期間內ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條　稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　各稅務署所轄內ニ相續稅審査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄內ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審査委員會ヲ置クコトヲ得

第七條　審査委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員ノ任期ハ三年トス

第八條　審査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條　審査委員會ハ每年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

第十條　審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條　審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條　審査委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ關スル審査ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條　稅務署長又ハ其代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條　相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財産ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條　相續稅ノ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間內ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條　擔保ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一　稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二　土地

三　建物

四　稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條　擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ土地建物ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十八條　稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條　年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條　增擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ稅金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條　年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ稅金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其稅金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍稅金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十二條　年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人相續稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ

前項ノ期間內ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附　則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○相續稅額速算表

算出方法　本表ノ課稅價格ヲ超過スル金額ニ稅率ヲ乘シテ得タル金額ニ當該欄內ノ稅額ヲ加ヘタルモノカ算出スヘキ稅額ナリ

課稅價格			千圓
家督相續	第一種	稅額	一圓
		超過金額ニ對スル稅率	千分ノ一
	第二種	稅額	一圓
		超過金額ニ對スル稅率	千分ノ一
	第三種	稅額	一圓
		超過金額ニ對スル稅率	千分ノ一
遺產相續	第一種	稅額	一〇圓
		超過金額ニ對スル稅率	千分ノ一三
	第二種	稅額	一三圓
		超過金額ニ對スル稅率	千分ノ一四
	第三種	稅額	一七圓
		超過金額ニ對スル稅率	千分ノ二〇

家督相續	第一種		第二種		第三種		遺産相續		第二種		第三種	
課稅價格	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率
五千圓	二五	六	三〇	七	四〇	一〇	五八	一四	六八	一七	九七	二五
一萬圓	五五	七	六五	八	九〇	一五	一二八	一七	一五三	二〇	二二三	二五
二萬圓	一三五	八	一四五	一〇	二四〇	二〇	二九八	二〇	三三五	二五	三三五	四五
三萬圓	二〇五	一〇	二四五	一五	四四〇	二五	四九八	二五	六〇三	三五	一〇三三	五五
四萬圓	三〇五	一五	三九五	二〇	六九〇	三〇	七四八	三五	九五三	四五	一五七三	六五
五萬圓	四五五	二〇	五九五	二五	九九〇	四〇	一〇九八	四五	一四〇三	五五	二一三三	七五
七萬圓	八五五	二五	一〇九五	三〇	一七九〇	五〇	一九九八	五五	二五〇三	六五	三一七三	八五
十萬圓	一、六〇五	三〇	一九九五	四〇	三九〇	六〇	三六四八	六五	四五五三	七五	六二七三	九五
十五萬圓	三、一〇五	四〇	三九九五	五〇	六二〇	七〇	六九八八	七五	八二〇三	八五	一一〇三	一〇五
二十萬圓	五、一〇五	五〇	六四九五	六〇	九七九〇	八〇	一〇六四八	八五	一二四五三	九五	一六二七三	一一〇五

家督相續	第一種		第二種		第三種		遺産相續		第二種		第三種	
課稅價格	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率	稅額	超過金額ニ對スル稅率
三十萬圓	一〇、一〇五	四千分ノ六〇	二三、四九五	四千分ノ七〇	一七、七九〇	四千分ノ九〇	一九、一四八	四千分ノ九五	二一、九五三	四千分ノ一〇五	二七、七七三	四千分ノ一二五
四十萬圓	一六、一〇五	七〇	一九、四九五	八〇	二六、七九〇	一〇〇	二八、六四八	一〇五	三二、四五三	一一五	四〇、二七三	一三五
五十萬圓	二三、一〇五	八〇	二七、四九五	九〇	三六、七九〇	一一〇	三九、一四八	一一五	四三、九五三	一二五	五三、七七三	一四五
六十萬圓	三一、一〇五	八〇	三六、四九五	九〇	四七、七九〇	一一〇	五〇、六四八	一二五	五六、四五三	一三五	六八、二七三	一四五
七十萬圓	三九、一〇五	九〇	四五、四九五	一〇〇	五八、七九〇	一二〇	六二、一四八	一三五	六八、九五三	一三五	八二、七七三	一五〇
八十萬圓	四八、一〇五	九〇	五五、四九五	一〇〇	七〇、七九〇	一二〇	七四、六四八	一三五	八二、四五三	一三五	九八、二七三	一五〇
九十萬圓	五七、一〇五	九〇	六五、四九五	一〇〇	八二、七九〇	一二〇	八七、一四八	一三五	九五、九五三	一三五	一一三、七七三	一五〇
百萬圓	六六、一〇五	一〇〇	七五、四九五	一一〇	九四、七九〇	一三〇	九九、六四八	一三五	一〇九、四五三	一四五	一二九、二七三	一六〇

百五十萬圓	一一六、一〇五	一〇〇	一三〇、四九五	一一〇	一五九、七九〇	一三〇	一六七、一四八	一三五	一八一、九五三	一四五	二一一、七七三	一六五
二百萬圓	一六六、一〇五	一一〇	一八五、四九五	一二〇	二二四、七九〇	一四〇	二三四、六四八	一五〇	二五四、四五三	一六〇	二九四、二七三	一八〇
二百五十萬圓	二二一、一〇五	一一〇	二四五、四九五	一二〇	二九四、七九〇	一四〇	三〇九、六四八	一五〇	三三四、四五三	一六〇	三八四、二七三	一八〇
三百萬圓	二七六、一〇五	一二〇	三〇五、四九五	一三〇	三六四、七九〇	一五〇	三八四、六四八	一六五	四一四、四五三	一七五	四七四、二七三	一九五
三百五十萬圓	三三六、一〇五	一二〇	三七〇、四九五	一三〇	四三九、七九〇	一五〇	四六七、一四八	一六五	五〇一、九五三	一七五	五七一、七七三	一九五
四百萬圓	三九六、一〇五	一二〇	四三五、四九五	一三〇	五一四、七九〇	一五〇	五四九、六四八	一六五	五八九、四五三	一七五	六六九、二七三	一九五
四百五十萬圓	四五六、一〇五	一二〇	五〇〇、四九五	一三〇	五八九、七九〇	一五〇	六三二、一四八	一六五	六七六、九五三	一七五	七六六、七七三	一九五
五百萬圓	五一六、一〇五	一三〇	五六五、四九五	一四〇	六六四、七九〇	一六〇	七一四、六四八	一八〇	七六四、四五三	一九〇	八六四、二七三	二一〇
五百五十萬圓	五八一、一〇五	一三〇	六三五、四九五	一四〇	七四四、七九〇	一六〇	八〇四、六四八	一八〇	八五九、四五三	一九〇	九六九、二七三	二一〇
六百萬圓	六四六、一〇五	一三〇	七〇五、四九五	一四〇	八二四、七九〇	一六〇	八九四、六四八	一八〇	九五四、四五三	一九〇	一、〇七四、二七三	二一〇

課稅價格	家督相續 第一種 稅額	家督相續 第一種 超過金額ニ對スル稅率	家督相續 第二種 稅額	家督相續 第二種 超過金額ニ對スル稅率	家督相續 第三種 稅額	家督相續 第三種 超過金額ニ對スル稅率	遺産相續 第一種 稅額	遺産相續 第一種 超過金額ニ對スル稅率	遺産相續 第二種 稅額	遺産相續 第二種 超過金額ニ對スル稅率	遺産相續 第三種 稅額	遺産相續 第三種 超過金額ニ對スル稅率
六百五十萬圓	七一一、一〇五圓	千分ノ一三〇	七七五、四九五圓	千分ノ一四〇	九〇四、七九〇圓	千分ノ一六〇	九八四、六四八圓	千分ノ一八〇	一、〇四九、四五三圓	千分ノ一九〇	一、一七九、二七三圓	千分ノ二一〇
七百萬圓	七七六、一〇五	一三〇	八四五、四九五	一四〇	九八四、七九〇	一六〇	一、〇七四、六四八	一八〇	一、一四四、四五三	一九〇	一、二八四、二七三	二一〇
七百五十萬圓	八四一、一〇五	一三〇	九一五、四九五	一四〇	一、〇六四、七九〇	一六〇	一、一六四、六四八	一八〇	一、二三九、四五三	一九〇	一、三八九、二七三	二一〇
八百萬圓	九〇六、一〇五	一三〇	九八五、四九五	一四〇	一、一四四、七九〇	一六〇	一、二五四、六四八	一八〇	一、三三四、四五三	一九〇	一、四九四、二七三	二一〇
八百五十萬圓	九七一、一〇五	一三〇	一、〇五五、四九五	一四〇	一、二二四、七九〇	一六〇	一、三四四、六四八	一八〇	一、四二九、四五三	一九〇	一、五九九、二七三	二一〇
九百萬圓	一、〇三六、一〇五	一三〇	一、一二五、四九五	一四〇	一、三〇四、七九〇	一六〇	一、四三四、六四八	一八〇	一、五二四、四五三	一九〇	一、七〇四、二七三	二一〇
九百五十萬圓	一、一〇一、一〇五	一三〇	一、一九五、四九五	一四〇	一、三八四、七九〇	一六〇	一、五二四、六四八	一八〇	一、六一九、四五三	一九〇	一、八〇九、二七三	二一〇
千萬圓	一、一六六、一〇五	一三〇	一、二六五、四九五	一四〇	一、四六四、七九〇	一六〇	一、六一四、六四八	一八〇	一、七一四、四五三	一九〇	一、九一四、二七三	二一〇

鑛業稅

⊙鑛　業　稅

○鑛業法（抄錄）（明治三十八年三月八日法律第四十五號）

改正　明治四十年四月　十　日法律第四十一號
明治四十三年三月二十五日法律第　十　號
明治四十四年三月　十一日法律第　九　號

第一章　總　則

第一條　本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス（明治四十年法律第四十一號追加）

第五條　帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス

第六條　本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第十三條　本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第二章　鑛業權

第十九條　鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅竝處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脫退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條　鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第六章　鑛業稅

第八十一條　鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

自己ノ採掘シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製錬スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ採掘シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（明治四十四年法律第九號追加）

第八十二條　鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

第八十三條　鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス（明治四十三年法律第十號改正）

第八十四條　鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ卽納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條　鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條　鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ卽納スヘシ

第八十七條　共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條　北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、採掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得（明治四十三年法律第十號改正）

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區竝間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第八章　罰則

第百一條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第百二條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數

罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第百三條　鑛業權者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　鑛業權者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第百五條　前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第百六條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

第百七條　本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第百十三條　日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以內ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ

其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第百十四條　明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

附　則（明治四十三年法律第十號）

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中鑛區稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十四年法律第九號）

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○砂鑛區稅法（明治四十三年三月二十五日法律第九號）

第一條　砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂鑛區稅ヲ課ス

河床　砂鑛區域一町毎ニ　金三十錢

河床ニ非サルモノ　砂鑛區域一千坪毎ニ　金三十錢

第二條　砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條　北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附　則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中砂金採取地稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

登

錄

稅

⊙登　錄　稅

○登錄稅法（明治二十九年三月二十八日法律第二十七號）

改正　明治三十年三月三十一日法律第三十一號
明治三十二年三月十四日法律第六十號
明治三十二年三月二十三日法律第八十三號
明治三十三年三月　十　日法律第四十四號
明治三十四年四月十三日法律第二十六號
明治三十五年二月二十四日法律第　八　號
明治三十八年一月　一　日法律第　九　號
明治三十八年三月十三日法律第五十七號
明治三十八年三月十三日法律第五十八號
明治三十九年四月十一日法律第三十五號
明治四十二年三月二十五日法律第十四號
明治四十二年四月十三日法律第三十一號
明治四十三年三月二十五日法律第十一號
明治四十三年六月十五日法律第六十四號
大正　三　年三月三十一日法律第二十一號
大正　七　年三月二十五日法律第十四號
大正十一年四月十七日法律第四十六號
大正十四年三月三十日法律第二十一號

第一條　登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條　不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十二年法律第八十三號改正）

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ五（明治三十八年法律第九號改正）

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ五（同）

三　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ六十（明治四十三年法律第十一號改正）

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動產價格ノ千分ノ三十（明治三十八年法律第五十七號及明治四十三年法律第十一號改正）

三ノ二　信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ六十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ歸屬權利者ナルトキハ不動產價格ノ千分ノ三十（大正十一年法律第四十六號追加）

四・第一號乃至第三號ノ二以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ三十五（明治四十三年法律第十一號及大正十一年法律第四十六號改正）

五　從來保有セル所有權ノ保存　不動產價格　千分ノ五（明治四十三年法律第十一號改正）

六　共有物ノ分割　分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格　千分ノ五

七　永代ノ地上權ノ取得　不動產價格　千分ノ二十五

八　地上權、永小作權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ二

存續期間二十年未滿　不動產價格　千分ノ三

存續期間三十年未滿　不動產價格　千分ノ四

存續期間三十年以上　不動產價格　千分ノ五

存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ五

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

九　賃借權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ一

存續期間十年以上　不動產價格　千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

十　地役權ノ取得　要役地價格　千分ノ一

十一　華族世襲財產ノ創設　不動產價格　千分ノ二十五（同上）

十二　先取特權ノ保存又ハ取得　債權金額又ハ不動產工事費用豫算金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三　質權、抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三ノ二　信託ノ登記　不動產價格　千分ノ五（大正十一年法律第四十六號追加）

十四　競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ六

但シ競賣若ハ强制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七　相續財產ノ分離　不動產價格　千分ノ六

所有權ニ付テハ　不動產價格　千分ノ一

所有權以外ノ權利ニ付テハ　不動產每一箇　金二十錢

十八　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　不動產每一箇　金二十錢

十九　假登記　不動產每一箇　金十錢

二十（明治三十八年一月法律第九號削除）

二十一　附記登記

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス（明治三十四年法律第二十六號改正）

二十二　登記ノ更正、變更又ハ抹消　不動產每一個　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十二年法律第八十三號改正）

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三（明治三十八年法律第九號改正）

三　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

三ノ二　信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ五十（明治四十三年法律第十一號改正）

四　第一號乃至第三號ノ二以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ五十（大正十一年法律第四十六號追加）

四ノ二　委付　船舶價格　千分ノ二十五（明治四十三年法律第十一號及大正十一年法律第四十六號改正）

五　從來保有セル所有權ノ保存　船舶價格　千分ノ三（大正三年法律第二十一號追加）

六　賃借權ノ取得　船舶價格　千分ノ三（明治四十三年法律第十一號改正）

存續期間十年未滿　船舶價格　千分ノ一

存續期間十年以上　船舶價格　千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ　船舶價格　千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

七　質權、抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

七ノ二　信託ノ登記　船舶價格　千分ノ三（大正十一年法律第四十六號追加）

八　競賣ノ申立　債權金額　千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　船舶每一箇　金二十錢（明治三十四年法律第二十六號改正）

十二　假登記　船舶每一箇　金二十錢（同上）

十三（明治三十八年一月法律第九號刪除）

十四　附記登記　船舶每一箇　金十錢（明治三十四年法律第二十六號追加）

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十五　登記ノ更正、變更又ハ抹消　船舶每一箇　金十錢（同上）

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二　鐵道抵當原簿、輕便鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十八年法律第五十八號、明治四十二年法律第三十一號及明治四十三年法律第六十四號改正追加）

一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
一ノ二　信託ノ登錄　債權金額　千分ノ一（大正十一年法律第四十六號追加）
二　强制競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二圓

第三條ノ三　工場財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十八年法律第五十八號改正）

一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
一ノ二　信託ノ登記　債權金額　千分ノ一（大正十一年法律第四十六號追加）
二　强制競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　假差押、假處分　債權金額　千分ノ一
四　登記ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二圓

第三條ノ四　鑛業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（同上）

一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
一ノ二　信託ノ登記　債權金額　千分ノ一（大正十一年法律第四十六號追加）
二　强制競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　假差押、假處分　債權金額　千分ノ一
四　登記ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二圓

第三條ノ五　漁業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（大正十四年法律第二十一號追加）

一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
一ノ二　信託ノ登記　債權金額　千分ノ一
三　强制競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
四　假差押、假處分　債權金額　千分ノ一
五　登記ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二圓

第四條　船籍ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十二年法律第八十三號改正）

一　新規登錄　毎十噸　金五十錢
二　轉籍　毎十噸　金十錢
三　除籍　毎十噸　金五錢
四　登錄ノ變更　船舶毎一箇　金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條　土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十一年法律第八十三號及明治三十五年法律第八號改正）

一　新規登錄　地價　千分ノ二十
二　地價ノ設定　地價　千分ノ十
三　地價ノ修正　地價　千分ノ十
四　開墾　地價　千分ノ十
五　開墾鍬下年期付與　地價　千分ノ十（明治三十五年法律第八號改正）
六　地價据置年期付與　地價　千分ノ十
七　新開免租年期延長　地價　千分ノ十（同上）
八　鍬下年期、地價据置年期ノ延長　地價　千分ノ十（同上）
九　低價年期ノ付與　地價　千分ノ一
十　地租條例第二十二條ノ地價ノ修正　地價　千分ノ一
十一　地價ノ復舊　地價　千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十五圓未滿ナルトキハ十五圓トス

（明治三十二年法律第八十三號及明治四十三年法律第十一號改正）

一　合名會社、合資會社設立　財產ヲ目的トスル出資ノ價格　千分ノ四（明治四十三年法律第十一號改正）
二　合名會社、合資會社出資增加　財產ヲ目的トスル增出資ノ價格　千分ノ四（同上）
三　株式會社設立　拂込株金額　千分ノ五（同上）
四　株式會社資本增加　增資拂込株金額　千分ノ五（同上）
五　株式會社第二回以後ノ株金拂込　每回拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ五（同上）
六　株式合資會社設立　增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ五（同上）
七　株式合資會社資本增加
八　株式合資會社第二回以後ノ株金拂込　每回拂込株金額　千分ノ五（同上）
九　合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立　拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ二（同上）
十　合併ニ因ル會社資本ノ增加　增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ二（同上）
十一　社債　拂込金額　千分ノ二（同上及大正三年法律第二十一號改正）
十一ノ二　第二回以後ノ社債拂込　每回拂込金額　千分ノ二（大正三年法律第二十一號追加）
十二　支店設置　每一箇所　金十五圓（明治四十三年法律第十一號改正）
十三　本店又ハ支店ノ移轉　每一件　金七圓（同上）
十四　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　每一件　金七圓（同上）
十五　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　每一件　金七圓（同上）

但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス　毎一件　金七圓（同上）

十六　登記ノ更正又ハ抹消　毎一件　金七圓（同上）

十六ノ二　合名會社、合資會社設立ノ取消　毎一件　金五圓（大正三年法律第二十一號追加）

十七　解散　毎一件　金五圓（同上）

十八　清算人ノ選任、解任又ハ變更　毎一件　金一圓五十錢（同上）

十九　清算ノ結了　毎一件　金一圓五十錢（同上）

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金一圓五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ（大正七年法律第十四號第三項乃至第五項創設）

第六條ノ二　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十二年法律第八十三號改正）

一　商號ノ新設又ハ取得　毎一件　金七圓（明治四十三年法律第十一號改正）

二　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　毎一件　金七圓（同上）

三　船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　毎一件　金七圓（同上）

四　商法第五條第七條ニ依ル登記　毎一件　金三圓（同上）

五　民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記　毎一件　金三圓（同上）

六　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　毎一件　金一圓五十錢（同上）

七　登記ノ更正又ハ抹消　毎一件　金一圓五十錢（同上）

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金七十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ（同上）

第七條　左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　金二十圓

二　登錄換　金十圓

三　取消ノ請求　金一圓

第八條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄

醫師　金二十圓

藥劑師　金十二圓

獸醫　金十二圓

蹄鐵工　金五圓

假開業醫師　金五圓

假免許獸醫　金三圓

假免許蹄鐵工　金一圓（明治三十二年法律第八十三號追加）

二登錄事項ノ變更　毎一件　金五十錢

第九條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（同上）

一　新規登錄

甲種船長	金十五圓
甲種一等運轉士	金十圓
甲種二等運轉士	金六圓
乙種船長	金十圓
乙種一等運轉士	金四圓
乙種二等運轉士	金三圓
丙種船長	金六圓
丙種運轉士	金二圓
機關長	金十五圓
一等機關士	金十圓
二等機關士	金六圓
三等機關士	金三圓
水先人	金二十圓

二　登錄事項ノ變更　毎一件　金五十錢

第十條　著作權ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四十三年法律第六十四號改正）

一　著作權ノ移轉　毎一件　金一圓

相續　毎一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　債權金額　千分ノ六

二　著作權ヲ目的トスル質權ノ設定　毎一件　金五十錢

三　前號ノ權利ノ移轉　毎一件　金一圓

相續　毎一件　金二圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金一圓（大正十一年法律第四十六號追加）

四　無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄　毎一件　金二十錢

四ノ二　信託ノ登錄

五　登錄ノ更正、變更又ハ抹消

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十一條　特許ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四十二年法律第三十一號改正）

一　特許權ノ移轉　毎一件　金一圓

相續

相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金十圓
二　使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存	毎一件	金五圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	債權金額	千分ノ六
四　前二號ノ權利ノ移轉		
相續	毎一件	金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金二圓
四ノ二　信託ノ登錄	毎一件	金二圓（大正十一年法律第四十六號追加）
五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	債權金額	千分ノ四
六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	毎一件	金五十錢
債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
第十二條　意匠ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四十二年法律第三十一號改正）		
一　意匠權ノ移轉		
相續	毎一件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金二圓

二　實施權ノ設定又ハ保存	毎一件	金一圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	債權金額	千分ノ六
四　前二號ノ權利ノ移轉		
相續	毎一件	金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金一圓
四ノ二　信託ノ登錄	毎一件	金一圓（大正十一年法律第四十六號追加）
五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	債權金額	千分ノ四
六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	毎一件	金二十錢
債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
第十二條ノ二　實用新案ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四十二年法律第三十一號改正）		
一　實用新案權ノ移轉		
相續	毎一件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金五圓
二　使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存	毎一件	金二圓

三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定　債權金額　千分ノ六

四　前二號ノ權利ノ移轉

相續　毎一件　金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金一圓

四ノ二　信託ノ登錄　毎一件　金一圓（大正十一年法律第四十六號追加）

五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四

六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十三條　商標ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス（明治四十二年法律第三十一號改正）

一　商標權ノ移轉

相續　毎一件　金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十圓

一ノ二　信託ノ登錄　毎一件　金二圓（大正十一年法律第四十六號追加）

二　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金五十錢

第十四條　鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三十八年法律第九號改正）

一　試掘權ノ設定　毎一件　金百圓（明治四十三年法律第十一號改正）

二　試掘權ノ變更

增區又ハ增減區　毎一件　金四十五圓（同上）

減區　毎一件　金十圓

三　試掘權ノ移轉

相續　毎一件　金十圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金四十五圓（同上）

四　採掘權ノ設定　毎一件　金二百圓（同上）

新規登錄　毎一件　金五十圓

鑛區合併　設定鑛區毎一箇　金五十圓

鑛區分割

五　採掘權ノ變更

鑛區訂正　毎一件　金五十圓

增區又ハ增減區　毎一件　金百圓（同上）

減區　毎一件　金二十圓

六　採掘權ノ移轉

相續　毎一件　金二十圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金百圓（同上）

七　抵當權ノ設定　債權金額　千分ノ六

新規登錄

鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定　毎一件　金五圓

鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定　毎一件　金十圓

八　順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更　毎一件　金五圓

九　抵當權ノ移轉　毎一件　金十圓

相續　毎一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十圓

九ノ二　信託ノ登錄　毎一件　金十圓（大正十一年法律第四十六號追加）

十　共同鑛業權者ノ脫退　毎一件　金五圓

十一　滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四

十二　廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅　毎一件　金五圓

十三　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十五條　砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四十四年法律第十四號改正）

一　砂鑛權ノ設定

新規登錄　採取區域河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄　金十五圓

砂鑛區合併　毎一件　金三圓

砂鑛區分割　設定砂鑛區毎一箇　金三圓

二　砂鑛權ノ變更

增區　採取區域河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄　金十五圓

減區　毎一件　金一圓

但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三　砂鑛權ノ移轉　毎一件　金五圓

相續　毎一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

四　抵當權ノ設定

	新規登錄	債權金額	千分ノ六
	砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定	毎一件	金五圓
		毎一件	金十圓
五	順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	毎一件	金五圓
六	抵當權ノ移轉	毎一件	金十圓
	相續	毎一件	金五圓（大正十一年法律第四十六號追加）
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金十圓
六ノ二	信託ノ登錄	毎一件	金五圓（大正十一年法律第四十六號追加）
七	滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限	債權金額	千分ノ四
八	廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅	毎一件	金一圓
九	登錄ノ更正、變更又ハ抹消	毎一件	金十錢
	債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		

第十五條ノ二　漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四十三年法律第六十四號改正）

一	漁業權ノ移轉		
	相續	毎一件	金一圓
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金五圓
二	漁業權ノ持分ノ移轉		
	相續	毎一件	金二十錢
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金一圓
三	入漁權ノ設定	毎一件	金三圓
四	入漁權ノ保存	毎一件	金五十錢
五	入漁權ノ移轉		
	相續	毎一件	金五十錢
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金二圓
六	入漁權ノ持分ノ移轉		
	相續	毎一件	金十錢
	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	毎一件	金五十錢
七	賃借權ノ取得		
	相續	毎一件	金五十錢
	相續以外ノ原因ニ因ル取得	毎一件	金二圓
八	先取特權ノ保存又ハ取得	債權金額又ハ工事費用豫算金額	千分ノ六

九　抵當權ノ設定又ハ移轉　債權金額　千分ノ六
　設定　毎一件　金一圓
　相續　毎一件　金二圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金二圓（大正十一年法律第四十六號追加）
九ノ二　信託ノ登錄　債權金額　千分ノ六
十　競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ四
十一　假差押、假處分　債權金額　千分ノ六
十二　抵當アル債權ノ差押　債權金額
十三　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登錄ノ回復　毎一件　金二十錢
十四　假登錄　毎一件　金二十錢
十五　附記登錄　毎一件　金十錢
十六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十六條　左ノ場合ニ於テ不動產又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四十二年法律第三十一號及大正三年法律第二十一號改正）

一　府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣郡市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣郡市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存　千分ノ一
　不動產又ハ船舶ノ價格
二　市町村ノ一部ニ屬スル財產ヲ無償名義ニ因リ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存　千分ノ一
　不動產又ハ船舶ノ價格
三　法人ノ合併ニ因ル法人ノ權利ノ取得　千分ノ五
　不動產又ハ船舶ノ價格

他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ前項第三號ニ依ル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ稅金額十錢未滿ナルトキハ十錢トス

第十七條　登錄稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條　登錄稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條　左ニ揭クルモノニハ登錄稅ヲ課セス（明治三十二年法律第八十三號改正）

一　政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登錄（大正三年法律第二十一號改正）

二　府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ノ登記又ハ登錄（明治三十三年法律第四十四號及大正三年法律第二十一號改正）

三　社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ登錄（同上）

四　明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第百四十八號布告建物書入質入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

五　產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付產業組合法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記（大正十四年法律第二十一號改正）

六　登記又ハ登錄スヘキ信託財產ニシテ委託者カ信託行爲ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキモノヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登錄（大正十一年法律第四十六號追加）

七　信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ財產權取得ノ登記又ハ登錄（同上）

八　信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財產權取得ノ登記又ハ登錄（同上）

前項第六號ノ規定ハ當該信託財產ニ付受益者變更ノ登記又ハ登錄ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス

此ノ場合ニ於テハ信託財產ハ其ノ變更ノ登記又ハ登錄ノ時ニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登錄稅ヲ課ス（同上）

第十九條ノ二　登記所カ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ（明治三十二年法律第八十三號及大正三年法律第二十一號改正）

第十九條ノ三　前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得（大正三年法律第二十一號追加）

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課稅標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課稅標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ四　前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得（大正三年法律第二十一號追加）

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ五　登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル稅額ト認定價格ニ相當スル稅額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ（同上）

第十九條ノ六　當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス（同上）

第十九條ノ七　評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク（同上）

第十九條ノ八　評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上）

第十九條ノ九　評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ（同上）

附　則

第二十條　本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條　現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手數料等ニシテ本法ニ規定スル登錄稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（明治三十二年法律第六十號）

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

附　則（明治三十二年法律第八十三號）

此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作權法施行ノ日ヨリ施行ス

附　則（明治三十八年法律第九號）

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登錄ニ付テハ鑛業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ屆出ヲ爲シ既ニ登錄稅ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其事項ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ更ニ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス

附　則（明治四十二年法律第十四號）

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ屆出ヲ爲シ既ニ手數料ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登錄ニ付更ニ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依ル登錄ニ付亦同シ

附　則（明治四十二年法律第三十一號）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十二年八月勅令第二百十二號及同年十月勅令第三百二號ヲ以テ定メラル）

附　則（明治四十三年法律第十一號）

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中登錄稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十三年法律第六十四號）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十三年六月勅令第二百七十六號、同年八月勅令第三百十五號、同年十一月勅令第四百三十四號ヲ以テ定メラル）

附　則（大正三年法律第二十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年十月勅令第二百二十四號ヲ以テ大正三年十一月十五日ヨリ施行）

附　則（大正七年法律第十四號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年法律第四十六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年十二月勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

附　則（大正十四年法律第二十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム（第三條ノ五ノ規定ハ大正十四年七月勅令第二百四十三號ヲ以テ大正十四年七月六日ヨリ第十九條第一項第五號ノ改正規定ハ大正十四年八月勅令第二百六十七號ヲ以テ大正十四年九月一日ヨリ施行）

○登錄稅法施行規則（明治三十二年五月十九日勅令第二百五號）

改正　明治三十八年三月二十五日勅令第七十七號
大正三年十月二十八日勅令第二百二十五號
大正十年十月五日勅令第四百十七號

第一條　印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ納ムヘシ

第二條　登錄稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條　官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登錄若ハ假登錄ヲ登記所又ハ登錄官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登錄稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登錄官廳ニ送付スヘシ（大正三年勅令第二百二十五號改正）

第四條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第五條ノ二　管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登錄稅ヲ徵收スヘシ（明治三十八年勅令第七十七號追加明治三十八年法律第六十八號施行ノ日ヨリ施行）

第六條　登錄稅法第十九條ノ三ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ（大正三年勅令第二百二十五號改正）

登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス

第七條　登錄稅法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ內國旅費規則ヲ準用ス（大正三年勅令第二百二十五號追加大正十年勅令第四百十七號改正）

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條　登錄稅法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日金三圓以上十圓以下ノ範圍內ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年勅令第二百二十五號追加大正十年勅令第四百十七號改正）

附　則（大正三年勅令第二百二十五號）

本令ハ大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年勅令第四百十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）（大正十年十月勅令第四百十七號ヲ以テ別表トス）

旅費額			
車馬賃	一里ニ付	宿泊料	一夜ニ付
七十五錢	五圓五十錢	三圓	二等旅客運賃但シ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃

鐵道賃船賃	
當日ニ付	一日ニ付

○國稅徵收法（抄錄）（明治三十年三月二十九日法律第二十一號）

第二十三條ノ四　差押ノ解除ニ關シテハ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス

○北海道舊土人保護法（抄錄）（明治三十二年三月一日法律第二十七號）

第二條（第二項省略）
前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス

○保險業法（抄錄）（明治三十三年三月二十二日法律第六十九號）

第九十條　相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要ス
社員名簿ノ登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

○永代借地權ニ關スル法律（抄錄）（明治三十四年九月二十一日法律第三十九號）

第三條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

○北海道土功組合法（抄錄）（明治三十五年三月八日法律第十二號）

第九條　組合事業ヲ施行シタルカ爲土地ノ登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス

○北海道國有未開地處分法（抄錄）（明治四十一年四月十四日法律第五十七號）

第二十條　土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以內ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登錄稅ヲ免除ス
前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

○耕地整理法（抄錄）（明治四十二年四月十三日法律第三十號）

第十條　耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス
前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

○破產法（抄錄）（大正十一年四月二十五日法律第七十一號）

第百二十二條　登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

○和議法（抄錄）（大正十一年四月二十五日法律第七十二號）

第八條　破產法第百十九條、第百二十條、第百二十二條、第百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

○產業組合中央金庫法（抄錄）（大正十二年四月六日法律第四十二號）

第八條　（第一項省略）

登錄稅法及印紙稅法中產業組合聯合會ニ關スル規定ハ產業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第十七條　（第一項及第二項省略）

所得稅法登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ產業債券ニ付之ヲ準用ス

○復興貯蓄債券法（抄錄）（大正十三年七月二十二日法律第十五號）

第六條　復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登錄稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セス

兌換銀行券發行稅

◉兌換銀行券發行稅

○兌換銀行券條例（抄錄）（明治十七年五月二十六日太政官布告第十八號）

改正　明治二十一年八月　一　日勅令第五十九號
明治二十三年五月　十　七日法律第三十四號
明治三　十　年三月二十九日法律第十　八　號
明治三十二年三月　十　日法律第五十五號

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス（明治二十一年勅令第五十九號本項改正）（明治三十年法律第十八號但書追加）

日本銀行ハ前項ノ外特ニ一億二千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項一億二千萬圓ノ內二千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス（明治二十一年勅令第五十九號本項追加）（明治二十三年法律第三十四號本項改正）（明治三十二年法律第五十五號本項改正）

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ增加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム（明治二十一年勅令第五十九號本項追加）

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ二千二百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ヘ貸付スヘシ（明治二十一年勅令第五十九號本項追加）（明治二十三年勅令第四號本項改正）

前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム（明治二十一年勅令第五十九號本項追加）

○兌換銀行券發行稅納稅ニ關スル法律

（明治三十二年三月十日法律第五十六號）

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納稅義務ヲ免除ス

本法納稅ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス

納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月二十八日限リ納ムルモノトス

○發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ平均發行高其他ニ關スル件

（明治三十二年三月二十七日大藏省令第九號）

改正　明治三十三年五月十九日省令第二十三號
　　明治三十五年十一月六日省令第二十八號

本年法律第五十六號ニ依リ發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ハ每日ノ現發行高ヨリ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ貸付ケタル金額ヲ控除シタルモノヲ一箇月分加算シ其ノ月ノ日數ヲ以テ除シタルモノトス

稅額ハ一箇月每ニ算出シ其ノ六箇月分ヲ合計シテ半季分ノ稅額トス

日本銀行ハ左記樣式ニ準シ每月平均發行額表ヲ調製シ翌月五日限リ之ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ（明治三十五年省令第二十八號本項改正）

樣式略（明治三十三年省令第二十三號樣式改正）

○兌換銀行券制限外發行稅納付ニ關スル件

（大正元年十月三十一日往第一萬一千三百七十四號大藏大臣達）

兌換銀行券條例第二條第三項ニ依リ發行スル兌換銀行券制限外發行稅ハ自今一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ二月末日限リ之ヲ納付スヘシ

兌換銀行券制限外發行額及償還額ハ六箇月分ヲ取纏メ報告書ヲ作リ翌月十五日迄ニ所轄稅務署ニ差出スヘシ

酒

税

⊙酒　税

○酒造税法

（明治二十九年三月二十八日法律第二十八號）

改正　明治三十一年十二月二十七日法律第二十三號
同　三十四年　三月三十日法律第　七　號
同　三十八年　一月　一日法律第　三　號
同　四十一年　三月十六日法律第十八號
大正　七年　三月二十三日法律第　六　號
同　九年　七月三十一日法律第十四號
同　十一年　三月二十八日法律第十六號
同　十五年　三月二十七日法律第十四號

第一條ノ一　此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス（明治三十四年法律第七號改正）

第一條ノ二　此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ（明治三十八年法律第三號本條追加）

左ニ揭クルモノハ清酒ト看做ス

一　前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二　清酒ト又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

三　清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以内ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

第一條ノ三　此ノ税法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ（同上）

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四　此ノ税法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ（同上）

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト見做ス

第一條ノ五　此ノ税法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ（同上）

左ニ掲クルモノハ味淋ト看做ス（大正九年法律第十四號本項改正）

一　前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二　味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

第一條ノ六　此ノ税法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ（明治三十八年法律第三號本條追加）

左ニ掲クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ燒酎ト看做ス

一　清酒

二　濁酒

三　味淋粕

四　米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、甘藷若ハ味淋粕ト麴及水トヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ（大正七年法律第六號本號改正）（大正九年法律第十四號本號改正）

第二條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條　其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條　酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石税ヲ課ス（明治三十一年法律第二三號改正）（明治三十四年法律第七號改正）（明治三十一年法律第二三號改正）（大正七年法律第六號改正）（大正九年法律第十四號改正）（大正十五年法律第十四號改正）

第一種　酒精分二十三度以下ノ濁酒	一石ニ付　三十六圓
第二種　酒精分二十三度以下ノ清酒白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎	一石ニ付　四十圓
第三種　酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎	一石ニ付　前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓五十錢ヲ加ヘタル金額
第四種　酒精分二十三度ヲ超ユル清酒濁酒白酒酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎	一石ニ付　酒精分一度毎ニ一圓八十錢

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス（明治三十四年法律第七號本項追加）

第五條　政府ハ一酒造年度間清酒ハ三百石濁酒ハ百石燒酎ハ十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス（明治三十一年法律第二十三號本條改正）（明治三十四年法律第七號本項改正）（大正七年法律第六號本條改正）

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテニ査定シタルモノト看做シ濁酒ニ在リテハ一石ニ付三十六圓、清酒又ハ燒酎ニ在リテハ一石ニ付四十圓ノ割合ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス（大正九年法律第十四號本項改正）（大正十五年法律第十四號本項改正）

第六條　造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス（明治三十一年法律第二十三號改正）

第一期　七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期　十月十六日ヨリ同三十一日限

同　上

第三期　翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期　翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條　第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得（明治三十一年法律第二十三號改正）（明治三十四年法律第七號改正）（明治四十一年法律第十八號改正）

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得（明治四十一年法律第十八號本項追加）

第八條　酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ査定石數ノ百分ノ七以內、味淋ハ査定石數ノ百分ノ三以內、燒酎ハ査定石數ノ百分ノ二以內ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得（大正七年法律第六號本項改正）（大正九年法律第十四號ノ二項改正）（大正十一年法律第十六號本項改正）

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第八條ノ二　同一製造場內ニ於テ酒類ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒類ニハ造石稅ヲ課セス（大正九年法律第十四號本條追加）

前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條　粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ增加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條　酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一　他人ニ讓渡ストキ

二　公賣セラルルトキ

三　飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類前項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石税ヲ課ス（大正九年法律第十四號本項追加）

第十一條　酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石税ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條　左ノ酒類ハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス（明治三十一年法律第二十三號改正）

一　災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二　腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三　腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ（明治三十八年法律第三號本號改正）

四　容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條　酒類ヲ製造スル者ハ納税保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得（大正九年法律第十四號本項改正）

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上增加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ增補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石税ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ增減ヲ爲サス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十一年法律第二十三號本條改正）

第十四條　左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一　相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ

二　納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三　造石税ヲ前納シタルトキ

四　酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ擔保シタルトキ（明治三十一年法律第二十三號本號追加）

第十五條　酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價

格徵收スヘキ稅金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス（明治三十一年法律第二十三號改正）

第十六條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス（同上）

第十七條　酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條　酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條　收稅官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得（明治三十四年法律第七號改正）

第二十條　（明治三十八年法律第三號削除）

第二十一條　（明治三十八年法律第三號削除）

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス（明治三十一年法律第二十三號本條改正）（明治三十四年法律第七號本條改正）（明治三十八年法律第三號本條改正）（明治四十一年法律第十八號本條改正）

前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ラス其造石稅ヲ徵收ス

第二十二條　（明治三十八年法律第三號削除）

第二十三條ノ二　（同上）

第二十三條ノ三　（明治三十四年法律第七號削除）

第二十四條　酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス（明治三十四年法律第七號改正）

第二十五條　酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス（同上）

第二十六條　納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス（同上）

第二十七條　酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ檢査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス（明治三十一年法律第二十三號改正）（明治三十四年法律第七號改正）

第二十八條　酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス（明治三十四年法律第七號改正）

第二十九條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス（同上）

第三十條　酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルト

キハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條　此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、再犯加重、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用ヰス但シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三十二條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス（明治三十四年法律第七號改正）

第三十三條　第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒類ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得（明治四十一年法律第十八號本條制定）（大正七年法律第六號本條改正）

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第三十四條　酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石税完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規程ニ從フモノトス（明治四十一年法律第十八號改正）

第三十五條　府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石税ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石税ヲ標準トシテ府縣税若ハ地方税及市町村税其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課税スルコトヲ得ス（明治三十一年法律第二十三號改正）

第三十五條ノ二　此ノ税法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ税法ト同一ノ税率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ税法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五拾圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス（明治四十一年法律第十八號本條追加）

第三十五條ノ三　政府ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徴税上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徴收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得（大正十五年法律第十四號本條追加）

前項ノ酒造組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

附　則

第三十六條　神祇ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無税トス

第三十七條　此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此税法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石税ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條　（明治四十一年法律第十八號削除）

第三十九條　（同上）

第四十條　（同上）

附　則（明治三十一年法律第二十三號）

此ノ法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行シ同日以後製成ニ係ル酒類ニハ其ノ製造着手ノ時期ニ拘ラス此ノ法律ヲ適用ス

此ノ法律施行前既ニ免許ヲ受ケタル者ニハ三十一年度三十二年度分ニ限リ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

附　則（明治三十四年法律第七號）

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ舊稅率ヲ適用ス

附　則（明治三十八年法律第三號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年法律第十八號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十八條削除ニ關スル規定ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス非常特別稅法中酒造稅法ニ依ル酒類及沖繩縣酒類出港稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正七年法律第六號）

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒類製造ノ免許ヲ受ケ本法施行ノ際現ニ酒類製造者タルモノニ限リ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒類ヲ製造セサルモノニ付テハ第三十三條第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附　則（大正九年法律第十四號）

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ大正九年九月三十日迄仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十一年法律第十六號）

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之レヲ施行ス

附　則（大正十五年法律第十四號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ其ノ造石稅ト本法ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

○酒造稅法施行規則（明治二十九年八月十八日勅令第二百八十七號）

改正　明治三十一年十二月二十九日勅令第三百六十二號
同　三十四年八月二十三日勅令第百六十四號
同　三十五年十月三十一日勅令第二百五十三號
同　三十八年一月一日勅令第三號
同　四十一年三月十六日勅令第三十八號

大正七年三月二十九日勅令第三十二號
同九年七月三十一日勅令第二百二十九號
同九年十二月二十七日勅令第五百八十二號
同十一年三月二十八日勅令第四十九號
同十五年三月三十一日勅令第三十二號

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ（明治三十一年勅令第三百六十二號改正）（明治三十四年勅令第百六十四號改正）（明治三十八年勅令第三號改正）

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ（明治三十八年勅令第三號追加）

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此限ニ在ラス（明治三十四年勅令第一六四號但書追加）（明治三十五年同第二五三號改正）

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス（明治三十五年勅令第百五十二號改正）

第五條 酒類製造主ハ每酒造年度ニ於テ製造スヘキ每酒類ノ見込造石數、製造着手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ（明治三十一年勅令第三百六十二號但書追加）（明治三十五年同第二百五十三號本項改正）

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ（明治三十四年勅令第百六十四號改正）

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二 酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ（明治三十八年勅令第三號追加）

第六條ノ三 酒類製造主其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ（同上）

第六條ノ四 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造稅法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以內ニ之ヲ爲スヘシ（同上）

第七條　酒類ノ造石税ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徴收ス

第八條　酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條　酒造税法第八條第二項但書ニ依リ控除スル滓引減量又ハ貯藏減量ハ清酒ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ七、味淋ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ三、燒酎ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ二トス

犯則ニ係ル清酒・味淋又ハ燒酎ニ付テハ前項ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除セス（明治三十四年勅令第百六十四號本條改正）（大正七年勅令第三十二號本條改正）（大正九年勅令第二百二十九號本條改正）（大正十一年三月勅令第四十九號本條改正）

第十條　酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪、酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ（明治三十四年勅令第百六十四號）（明治四十一年同第三十八號改正）

第十一條　（大正九年勅令第二百二十九號削除）

第十二條　（同上）

第十三條　酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量、時期等ヲ税務署長ニ申告スヘシ

第十四條　酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條　酒滓、酒粕、蒸餾粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條　酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪又ハ酒造税法第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ税務署長ニ申告スヘシ（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）（大正九年勅令第二百二十九號改正）

第十七條　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ税務署長ニ申告スヘシ

第十八條　酒造税法第十二條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請ハントスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ税務署長ニ申請スヘシ（明治三十一年勅令第三百六十二號改正）（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第十九條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ税務署長ハ其事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎ノ製造用ニ供セムトスルモノハ税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ（明治三十一年勅令第三百六十二號改正）（明治三十四年勅令第百六十四號改正）（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第二十條　酒類製造主ハ酒類製造着手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造税法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造着手前ニ其ノ旨税務署長ニ申請スヘシ

保證物ヲ增補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ

申請スヘシ（明治三十一年勅令第三百六十二號改正）

第二十一條　保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル（明治四十一年勅令第三十八號改正）

一　金錢

二　國債（大正九年勅令第五百八十二號本號改正）

三　土地

四　火災保險ニ附シタル建物

第二十二條　保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル（明治三十一年勅令第三百六十二號改正）（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）（明治四十一年勅令第三十八號改正）

第二十三條　金錢又ハ無記名國債證券ヲ保證物トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ保證物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

土地又ハ建物ヲ保證物トシテ提供スルトキハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ（明治三十四年勅令第百六十四號改正）（大正九年勅令第百八十二號改正）

第二十四條　保證物トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務署長ノ指定期限內ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）（明治四十一年勅令第三十八號改正）（大正九年勅令第五百八十二號改正）

第二十五條　酒造稅法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條　納稅保證人ハ稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第二十七條　稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第二十八條　收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條　稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第三十條　酒類製造主ハ稅務署長ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得（同上）

第三十一條　酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ稅金ヲ納メシムヘシ

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍稅金ニ不足アルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ（明治二十一年勅令第三百六十二號改正）

第三十二條　同一製造場內ニ於テ淸酒並濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第三十三條　稅務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得（同上）

第三十四條　收稅官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ（明治三十四年勅令第百六十四號改正）

第三十五條　收稅官吏ハ搾器械、蒸餾器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトヲ得（明治三十八年勅令第三號改正）

收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料用酒類ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得（明治三十八年勅令第三號改正）

第三十六條　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條　收稅官吏カ必要ト認メテ酒造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ（明治三十八年勅令第三號改正）

第三十八條　酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル每ニ並ニ仕込每ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條　左ニ揭クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ（明治三十八年勅令第三號改正）

一　熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ

二　熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ

三　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

四　仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ

五　原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

六　藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ

七　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第四十條　酒類製造場外ヨリ酒類製造場內ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第四十一條　二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ淸酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條　酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

酒類製造主ハ前項檢査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合ス

ルコトヲ得ス

第四十二條ノ二　酒造稅法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醪其ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ（明治四十一年勅令第三十八號追加）

第四十三條　酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、增減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアル時ハ此ノ限ニアラス

第四十三條ノ二　收稅官吏ハ酒類製造主及販賣主ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス（明治三十八年勅令第三號追加）

第四十三條ノ三　酒造稅法第三十五條ノ三第一項ニ依リ稅務署長ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ每酒造年度間ニ於テ所屬組合員ノ製造酒類中造石數ヲ査定シタル酒類ノ査定石數（滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除シタルモノ）十石ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ十石未滿ノ端數アルトキハ之ヲ十石トシテ計算ス（大正十五年三月勅令第三十二號追加）

第四十三條ノ四　前條ノ酒造組合前條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得（大正十五年勅令第三十二號追加）

第四十三條ノ五　沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルハ那覇港ニ由ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法施行規則第二條乃至第四條ヲ準用ス但シ同規定中樺太廳支廳トアルハ稅務署トシ樺太廳長官トアルハ大藏大臣トス（大正十五年勅令第三十二號追加）

附　則

第四十四條　酒造稅法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造稅法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ（明治三十五年勅令第二百五十三號）

第四十五條　酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ（明治三十五年勅令第二百五十三號）

附　則（大正七年勅令第三十二號）

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製成シタル淸酒又ハ味淋ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル（大正七年勅令第三十二號）

附　則（大正九年勅令第二百二十九號）

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ檢査シタル原料用酒類ノ造石數査定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正九年勅令第五百八十二號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其

ノ效力ヲ有ス

附　則（大正十一年勅令第四十九號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年勅令第三十二號）

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四酒造年度ニ限リ第四十三條ノ三ノ改正規定中毎酒造年度トアルハ大正十五年四月一日ヨリ同年九月三十日迄ノ期間トス

○沖縄縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造税ニ關スル法律

（明治四十一年三月二十七日法律第二十四號）

改正　大正九年七月三十一日法律第十七號

第一條　東京府小笠原島伊豆七島ニ於テハ酒造税法第四條ニ依ル造石税ハ當分其ノ三分ノ一トス

（大正九年法律第十七號改正）

第二條　東京府小笠原島伊豆七島ニ於テ製造シタル酒類ハ之ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ酒造税法第四條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ノ罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第三條　舊慣ニ依ル沖縄縣酒造免許税ハ自今之ヲ徴收セス

第四條　舊慣ニ依リ酒造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行後引續キ酒類ヲ製造スル者ハ酒造税法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ製造者ニハ當分酒造税法第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

附　則

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年法律第十七號）

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖縄縣酒類出港税則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前沖縄縣内ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ沖縄縣外ニ移出スル場合ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル

○樺太酒類出港税法

（大正元年八月十二日法律第一號）

第一條　本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造税法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料税法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ

第二條　樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造税法、

酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒類及酒精含有飲料稅法ノ造石稅ト同一ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

第三條　酒類ハ命令ヲ以テ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ移出スルコトヲ得ス

第四條　酒類ヲ移出セムトスル者出港稅ヲ納付シタルトキハ領收證及船積免狀ヲ交付ス

第五條　船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前其ノ積取石數ヲ收稅官吏ニ屆出ツヘシ

第六條　收稅官吏又ハ警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ出港船舶ニ臨檢スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第七條　出港稅ヲ納付セスシテ酒類ヲ船積シ又ハ移出シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス既ニ處分シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第八條　第五條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　收稅官吏又ハ警察官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條　酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正元年勅令第八號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

○樺太酒類出港稅法施行規則

（大正元年八月二十日勅令第九號）

改正　大正十一年六月三日勅令第三百二十號

第一條　樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルハ開港ニ由ルヘシ（大正元年勅令第三百二十號改正）

第二條　酒類ヲ移出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ移出港所轄樺太廳支廳ニ提出スヘシ

一　酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量

二　容器ノ種類及箇數

三　積載船舶ノ名稱

四　移出先及移出ノ日

五　移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

第三條　前條ノ申告アリタルトキハ所轄樺太廳支廳ハ酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定

シ出港稅ヲ徵收スヘシ

第四條　船積免狀ハ所轄樺太廳支廳之ヲ交付スヘシ

船積免狀ノ樣式ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○酒造組合法

（明治三十八年一月一日法律第八號）

第一條　本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ

第二條　酒類製造者ハ稅務署管內ヲ一區域トシ酒造組合ヲ設クルコトヲ得但シ土地ノ狀況ニ從ヒ特別ノ區域ニ依ルコトヲ得

第三條　酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲ス

第四條　酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域內ニ於ケル酒類製造者三分ノ二以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

二種以上ノ酒類ノ製造者組合ヲ設置セムトスルトキハ各種每ニ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條　酒造組合設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域內ニ於ケル同種酒類ノ製造者ハ當然其ノ組合員ト爲ル

第六條　酒造組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲酒造組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　酒造組合及酒造組合聯合會ハ法人トス

第八條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ノ變更ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　政府ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ノ規定ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ、其ノ行爲ヲ制止シ、役員ノ改選ヲ命シ又ハ組合若ハ聯合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十一條　本法ニ規定スルモノノ外酒造組合及酒造組合聯合會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十二條　本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　酒造稅法ニ依リ設立シタル酒造組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

前項ノ酒造組合ニシテ其ノ區域內ニ於ケル酒類ノ製造者各種每ニ三分ノ二以上ヨリ成立スルトキハ同區域內ニ於テ未タ組合ニ加入セサル同種酒類ノ製造者ハ本法施行ノ日ヨリ當然組合員ト爲ル

○酒造組合法施行規則

（明治三十八年一月一日勅令第八號）

第一條　酒造組合法ニ依リ酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ同業者ニ於テ其ノ組合ノ區域及酒類ヲ定メ發起ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第二條　酒造組合設立發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ其ノ組合ノ區域内ニ於ケル同業者ニ左ノ事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

一　組合ノ名稱、區域及酒類

二　組合員タルヘキ者ノ數但シ各種酒類毎ニ之ヲ區別スヘシ

三　組合事業ノ概目

四　創立費及經費ノ概算

五　同意表示ノ形式及期間

第三條　法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作リ遲滯ナク創立總會ヲ召集スヘシ

創立總會ヲ召集スルトキハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第四條　定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス但シ二種以上ノ酒類製造者組合員タルヘキ場合ニ於テハ各種酒類製造者毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條　創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ表決權ヲ行フコトヲ得

第六條　創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類定款及創立總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第七條　創立總會ニ於テハ其ノ議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ選擧シ又ハ經費ノ豫算竝徵收方法ヲ議定スルコトヲ得

第八條　發起人發起ノ認可アリタル後六箇月以内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第九條　酒造組合聯合會ノ創立總會ハ其ノ聯合會ヲ組織セムトスル組合ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條　酒造組合聯合會ノ創立總會ヲ終リタルトキハ酒造組合聯合會設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第十一條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十二條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ酒造組合聯合會ノ定款ニハ第十二號及第十三號ノ記載ヲ要セス

一　名稱

二　區域

三　酒　類
四　事務所ノ所在地
五　事　業
六　役員ノ權限及其ノ選任、解任ニ關スル規定
七　總會召集ノ方法
八　會議ノ方法
九　經費ノ負擔及其ノ徵收方法
十　定款違反者處分ノ方法
十一　定款ノ變更ニ關スル手續
十二　酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法
十三　酒造稅法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於ケル處分方法
十四　加入及脫退ニ關スル規定
十五　解散ニ關スル規定

定款ニハ前項各號ニ掲クルモノノ外酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ於テ必要トスル事項ヲ記載スルコトヲ得

第十三條　定款ノ變更ヲ議定シタルトキハ認可申請書ニ其ノ變更シタル定款及變更ノ理由書ヲ添付シ地方長官ニ提出スヘシ

第十四條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長又ハ聯合會長　一名
評議員　若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長ハ組合員中ヨリ、聯合會長ハ聯合會ヲ組織スル酒造組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選擧シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第十五條　組合長又ハ聯合會長ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヲ代表シ之ヲ統轄ス

組合長又ハ聯合會長故障アルトキハ定款ノ規定ニヨリ他ノ役員之ヲ代理ス

評議員ハ組合長又ハ聯合會長ノ諮詢ニ應シ又ハ定款ノ規定ニ依リ組合又ハ聯合會ノ事務ノ一部ヲ分掌ス

第十六條　組合長又ハ聯合會長ノ解任アリタルトキ及他ノ役員ノ選任又ハ解任アリタルトキハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十七條　組合又ハ組合聯合會ニ於テ定款ノ執行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ都度地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十八條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ組合員ノ製品ヲ檢査スルコトヲ得

酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ經費ノ豫算竝徴收方法ハ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ毎年少クトモ一回酒造組合ニ在リテハ組合員ニ、酒造組合聯合會ニ在リテハ其ノ組合ニ公示シ且地方長官及税務監督局長ニ報告スヘシ

第二十條　役員ノ闕ケタル場合ニ於テ補闕選擧ノ手續ヲ行フヘキ者アラサルトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第二十一條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條　酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散シタルトキハ組合長又ハ聯合會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者アラサルトキハ地方長官之ヲ選任ス

第二十四條　清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ改任スルコトヲ得

第二十五條　清算結了シタルトキハ其ノ結果ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十六條　酒造組合法第十條ノ處分ハ地方長官之ヲ行フ

第二十七條　本令中酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ關シ地方長官ニ屬スル事務ニシテ二府縣以上ニ渉ルモノハ大藏大臣之ヲ行フ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前酒造組合規則ニ依リ爲シタル酒造組合設置ノ手續ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ定款ニ記載スヘキ事項ニシテ組合契約書ニ記載ナキモノハ之ヲ議定シ本令施行後三箇月以内ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

○酒母醪及麴取締法

（明治三十八年一月一日法律第七號）

改正　明治四十一年三月二十七日法律第二十六號

第一條　本法ハ酒造税法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ス

第二條　酒母、醪又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者及麴ノ請賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第四條　收税官吏ハ酒母、醪若ハ麴ノ製造場又ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

收税官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第五條　收税官吏ハ運搬中ニ在ル酒母、醪又ハ麴ヲ檢査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第六條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止スルモ製造場內ニ酒母、醪、麴、製造用容器、器具又ハ器械ノ現存スル間ハ收稅官吏ハ其ノ製造場ニ臨ミ建築物又ハ其ノ現在品ヲ檢査シ又ハ之ニ封印ヲ施スコトヲ得

第七條　醪ハ之ヲ讓渡シ、賣入シ、飲料トシテ消費シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ヘ移出スルコトヲ得ス

第八條　酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡スノ外讓渡シ又ハ賣入スルコトヲ得ス

酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡シタル場合ノ外收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ヘ移出スルコトヲ得ス

第九條　免許ヲ受ケスシテ酒母、醪若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ第七條若ハ第八條ニ違反シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒母、醪又ハ麴及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス（明治四十一年法律第二十六號本條改正）

前項ノ酒母、醪ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス

第十條　酒母、醪又ハ麴ノ檢査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、（再犯加重）（數罪俱發）ノ例ヲ用ヰス

第十四條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

第十七條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第十八條　第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ酒母、醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ

取消スコトヲ得

第十八條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒母、醪又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒母、醪又ハ麴及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス（明治四十一年法律第二十六號追加）

附　則

第十九條　本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條　本法施行前酒造稅法第二十條ニ依リ酒母又ハ醪製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條　本法施行前ヨリ麴ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後十五日以內ニ本法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

前項ノ期間內ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條（明治四十一年法律第二十六號削除）

附　則（明治四十一年法律第二十六號）

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○酒母、醪及麴取締法施行規則（明治三十八年一月一日勅令第七號）

第一條　酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造セムトスル者及販賣ノ爲ニ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒母、醪又ハ麴製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒母、醪及麴取締法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條　酒母、醪又ハ麴ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條　所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ酒母、醪又ハ麴製造場ノ圖面又ハ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ檢定前使用スヘカラサルコトヲ命シタルトキハ製造者ハ製造用容

器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　酒母、醪又ハ麴製造者ハ毎年十二月中ニ翌年製造スヘキ見込石數、製造著手ノ時期及製造方法ヲ記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ申告スヘシ

酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第七條　酒母、醪又ハ麴ノ製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒母、醪又ハ麴ノ製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母、醪又ハ麴製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意書ヲ添附スヘシ

第八條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ第七條第二項ニ依リ製造業ノ引繼ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十條　收稅官吏ハ隨時酒母、醪又ハ麴ノ製造場若ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

收稅官吏監督上必要ト認メタル場合ニ於テ製造者ヨリ前項ノ物件ニ封印以外ノ適當ナル方法ヲ施サムコトヲ申出テタルトキハ之ヲ承認スルコトヲ得

第十一條　收稅官吏カ必要ト認メテ酒母、醪、麴又ハ其ノ原料品ヲ指定シ其ノ讓渡、質入、消費又ハ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第十二條　酒母ヲ買入レムトスル者ハ其ノ住所、氏名又ハ名稱、酒母ノ數量、用途及買入先ヲ記シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出シ酒母買入認許證ノ交付ヲ請求スヘシ

第十三條　酒母製造者ハ酒母買入認許證ト引換ニ非サレハ酒母ヲ讓渡スコトヲ得ス

酒母製造者ハ前項ノ買入認許證ヲ以テ酒母ノ移出ヲ收稅官吏ニ證明スヘシ

第十四條　酒母ヲ麴ニ混和シタルモノハ酒母ト看做ス

第十五條　酒母、醪又ハ麴製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル酒母、醪又ハ麴ノ數量及其ノ製造ノ日

四　酒母ヲ麴ニ混和シタルトキハ其ノ酒母及麴ノ數量、其ノ混成數量及其ノ混和ノ日

五　使用又ハ他ニ引渡シタル酒母、醪若ハ麴ノ數量及使用又ハ引渡ノ日、引渡シタルモノノ價額及引渡先

第十六條　麴請賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル麴ノ數量、價額、引取ノ日及引取先

二　販賣シタル麴ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十七條　收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條　酒母、醪及麴取締法第十六條ノ施行ニ付テハ間接國稅犯則考處分法施行規則ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒母、醪及麴取締法第二十一條ニ依リ免許ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ヲ適用セス

○酒精及酒精含有飲料稅法

（明治三十四年三月三十日法律第八號）

改正　明治三十八年一月　一　日法律第四號
同　四十一年三月十六日法律第十九號
大正　七　年三月二十三日法律第七號
同　九　年七月三十一日法律第十五號
同　十五年三月二十七日法律第十五號

第一條　酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス

第二條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス（明治四十一年法律第十九號改正）（大正七年法律第七號改正）（大正九年法律第十五號改正）（大正十五年三月法律第十五號改正）

第三條　本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

第三條ノ二　本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ（明治三十八年法律第四號追加）

左ニ揭クルモノハ葡萄酒ト看做ス

一　葡萄ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ葡萄ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　葡萄ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡萄ノ汁液ヲ純炭酸石炭ヲ以テ除酸シ醱酵セシメタルモノ

三　葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ酒精ヲ混和シタルモノ

第三條ノ三　本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ（明治三十八年法律第四號追加）

葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又ハ其ノ酸ヲ稀釋シ醱酵セシメタルモノハ果實酒ト看做ス

第四條　清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒（ビール）及清涼飲料ニハ本法ヲ適用セス（明治三十八年法律第四號改正）（大正十五年法律第十五號改正）

第五條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條ノ二　政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數酒精ニ在リテハ五十石酒精ヲ含有スル飲料ニ在リテハ十石以上ニ非サレハ製造ノ免許ヲ與ヘス（明治四十一年法律第十九號本條追加）

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對スル造石稅ハ一石金四十二圓ノ割合ニ依ル（大正七年法律第七號本項改正）（大正九年法律第十五號本項改正）（大正十五年法律第十五號本項改正）

第六條　造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス（明治四十一年法律第十九號改正）

前條第二項ニ依ル造石稅ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以內トス（明治四十一年法律第十九號本項追加）

第七條　第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得（明治四十一年法律第十九號改正）

第八條　同一製造場內ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條　製造石數ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シテ之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若ハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石稅ヲ課ス

第十條　第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石稅ヲ課ス

一　他人ニ讓渡サレタルトキ

二　公賣セラレタルトキ

三　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス（明治四十一年法律第十九號改正）

第十六條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條　第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、再犯加重、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用ヰス但シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條ノ二　第十六條乃至第十八條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得（明治四十一年法律第十九號本條追加）（大正七年法律第七號本項改正）

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十四條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ（明治四十一年法律第十九號改正）

第二十四條ノ二　葡萄酒及果實酒ニハ第五條、第十三條、第十四條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス（明治三十八年法律第四號追加）

免許ヲ受ケスシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス（明治四十一年法律第十九號追加）

第二十四條ノ三　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ本法ト同一ノ税率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之レヲ沒收ス

附　則

第二十五條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊税率ヲ適用ス

第二十六條　混成酒税法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

附　則（明治三十八年法律第四號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ葡萄酒ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一箇月以内ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

附　則（明治四十一年法律第十九號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第五條ノ二第二項ノ規定ヲ適用セス

非常特別税法中酒精又ハ酒精含有飲料ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正七年法律第七號）

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサルモノニ付テハ第二十三條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附　則（大正九年法律第十五號）

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年法律第十五號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○酒精及酒精含有飲料税法施行規則（明治三十四年八月二十四日勅令第百六十五號）

改正　明治三十八年一月一日勅令第四號
同　四十一年三月十六日勅令第三十九號

第一條　酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ（明治三十八年勅令第四號改正）

第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ（明治三十八年勅令第四號追加）

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒精及酒精含有飲料稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條　酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業着手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造着手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ着手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒精又ハ酒精含有飲料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ（明治三十八年勅令第四號本項改正）

第六條ノ二　酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ（同上追加）

第七條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務

署ニ提出スヘシ

第七條ノ二　變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飲料税法第五條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ（明治四十一年勅令第三十九號追加）

第八條　酒精及酒精含有飲料税法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場内ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條　酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄税務署ニ申告スヘシ

第十條　酒精及酒精含有飲料税法第十一條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

第十一條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量及其ノ製成ノ日

四　他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條　酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先

二　販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條　收税官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飲料其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第十四條　收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　左ニ掲クル場合ニ於テ收税官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ（明治三十八年勅令第四號本條改正）

一　醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

二　濾過、蒸餾又ハ調合ニ着手セムトスルトキ

三　原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

四　酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ

五　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

六　製造場外ヨリ製造場内ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

七　前各號ノ外收税官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十六條　酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ（明治四十二年勅令第三十九號本條追加）

第十七條　收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十八條　本令施行前酒造稅法又ハ混成酒稅法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條　本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限リ第四條第二項ヲ適用セス

附　則（明治三十八年勅令第四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年勅令第三十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○果實酒ト看做スモノノ取扱方ノ件

（明治三十八年三月十一日大藏省令第十一號）

酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三第二項ニ依リ果實酒ト看做スモノ左ノ通相定ム

一　果實ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ果實ノ汁液一石ニ付精製糖三十斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　果實ノ汁液又ハ前項ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル果實ノ汁液ヲ水若ハ純炭酸石灰ヲ以テ酸ヲ調節シ醱酵セシメタルモノ

○酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律

（明治四十三年三月二十五日法律第六號）

第一條　酒精及酒精含有飲料稅法ニ依リ納付スヘキ酒精ノ造石稅ハ其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以內其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ニ依リ造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル者猶豫期間內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ稅金ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保物ハ之レヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及稅金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル酒精ヲ其ノ猶豫期間內ニ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法ノ規定スル所ニ從ヒ工業用ニ使用又ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ相當スル酒精ニ付テハ造石精ヲ免除ス

第三條　前條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ其ノ酒精カ造石稅ノ徵收猶豫ヲ受

ケタルモノナルコトヲ證スヘキ書類竝工業用ニ使用又ハ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律施行ニ關スル件

（明治四十三年法律第六號施行ニ關スル件）

改正　大正九年十二月二十八日勅令第百八十四號

第一條　明治四十三年法律第六號第一條ニ依リ徵收猶豫ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

一　酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱

二　擔保物ノ種類、數量及價格

三　猶豫ヲ請ハムトスル期間

四　擔保物提供者ノ住所、氏名又ハ名稱

五　前各號ノ外必要ナル事項

第二條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル（大正九年勅令第五百八十九號本條改正）

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第三條　（大正九年勅令五百八十九號削除）

第四條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ造石稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ造石稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　明治四十三年法律第六號第三條ノ申請書ニハ其ノ酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、免除スヘキ稅額、査定ノ年月日、製造場及請求者ノ住所、氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ト酒精ヲ工業用ニ使用又ハ供給シタル者ト異リタル場合ニ於テハ免除申請者ハ使用者又ハ供給者ニ其ノ酒精ヲ交付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第六條　前條ノ申請書ニ添附スヘキ酒精造石稅徵收猶豫證明書又ハ酒精使用證明書ノ下付ヲ受ケム

トスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則ハ前項ノ酒精使用證明書ヲ下付スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第五百八十九號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ造石稅ヲ徵收ス

○酒精、酒類其他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律（明治三十四年三月三十日法律第十號）

改正　明治三十七年四月一日法律第五號
大正元年八月十二日法律第三號

第一條　命令ノ定ムル所ニ依リ造石稅若ハ出港稅ヲ課セラレタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒稅ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅若ハ出港稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得（明治三十七年法律第五號改正、大正元年法律第三號改正）

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ政府ニ提出スルコトヲ要ス（大正元年法律第三號本項改正）

一　納稅濟證明書（同上本號改正）

二　輸出免狀

三　外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類但命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得（明治三十七年法律第五號本號改正）

第三條　納稅濟ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ前條納稅濟證明書ニ代フルコトヲ得

附　則

第四條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ之ヲ適用ス

第五條　明治二十一年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其他酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ仍該勅令ヲ適用ス

附　則（明治三十七年法律第五號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ同日以後製成シタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニ之ヲ適用ス

造石税又ハ麥酒税納付濟ノ酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニシテ本法施行前ニ製成シタルモノヲ外國ニ輸出シタル者ニハ仍舊法ヲ適用ス

○明治三十四年法律第十號施行規則

（明治三十四年八月二十四日勅令第百六十六號）

改正　明治三十七年四月一日勅令第八十七號
同　四十年七月十日勅令第二百六十三號
同　四十二年十一月二十四日勅令第三百二十四號
大正元年八月十九日勅令第十一號
同　九年十二月二十八日勅令第五百八十三號

第一條　酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付納税濟證明書又ハ擔保提供證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル申請書ヲ製造場所轄税務署ニ提出スヘシ

第二條　酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付税額ニ相當スル擔保ヲ提供セムトスル者ハ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、擔保ノ種類、價格及税金不納ノ場合ニ於テハ其ノ擔保物ヲ以テ税金ノ納付ニ充ツヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ製造場所轄税務署ニ提出スヘシ

第三條　擔保ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル（大正九年勅令第五百八十三號改正）

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ税務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ税務署ニ提出スヘシ

乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尚記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第三條ノ二　外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスルモノハ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニ積載スヘシ但シ航路其ノ他ノ事由ニ依リ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニ積載スヘシ但シ航路政府ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス（明治三十七年勅令第三百八十七號本條追加）（明治四十二年勅令第三百二十四號本項追加）

前項ノ場合ニ於テ船舶カ輸出申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ內國沿岸ニ寄港シタル時ハ金額ノ下付ヲ請求スルコト得ス但シ海難其ノ他己ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス（明治四十二年勅令三百二十四號本項改正）

第四條　外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ少クトモ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場及輸出先竝積載スヘキ船舶名及其ノ內國寄港地ヲ記載スヘシ（明治三十七年勅令第八十七號改正）

第五條　前條ノ申告アリタルトキハ税關ハ酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ノ種類、數量及

含有純酒精ノ容量ヲ檢定スヘシ

第六條　第一條、第二條、第四條及第五條ノ場合ニ於テ清酒、濁酒、白酒、味淋、麥酒ニ限リ含有純酒精ノ容量ヲ記載シ又ハ檢定スルコトヲ要セス

第六條ノ二　出港稅納稅濟證明書ノ交付又ハ出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一條及第四條ニ定メタル査定ノ日及製造場ニ代ヘ納稅ノ日及移出港ヲ記載シ第一條ノ申請書ハ沖繩縣ニ在リテハ移出港ヲ管轄スル稅務署ニ、樺太ニ在リテハ移出港ヲ管轄スル樺太廳支廳ニ提出スヘシ（大正元年勅令第十一號追加）

第六條ノ三　明治三十四年法律第十號第二條ノ申請書ハ之ヲ輸出港稅關ニ提出スヘシ但シ樺太酒類出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ之ヲ樺太廳ニ提出スヘシ（同上）

第七條　〔韓國〕ニ陸揚シタル酒精、酒類又ハ其ノ他ノ酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求スル場合ニ於テ同法第二條第三號ノ添附書類ハ〔韓國〕稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ證明シタルモノニ限ル（明治三十七年勅令第八十七號追加明治四十年勅令第二百六十三號改正）

附　則（明治三十七年勅令第八十七號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十年勅令第二百六十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十年勅令第三百二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正元年勅令第十一號）

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第五百八十三號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

○工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法

（明治三十九年四月二十四日法律第四十六號）

改正　大正元年八月十二日法律第二號

第一條　造石稅又ハ出港稅納付濟ノ酒精ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル工業ノ用ニ供スル者ハ政府ノ承認ヲ得テ毎回一石以上ノ酒精ヲ使用スルトキニ限リ其ノ造石稅又ハ出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得（大正元年法律第二號改正）

第二條　造石稅又ハ出港稅納付濟ノ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル政府ノ工業用ニ供給スル者ハ毎回一石以上ノ供給ヲ爲ストキニ限リ其ノ造石稅又ハ出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得（同上）

第三條　前二條ノ請求ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ使用又ハ供給後一年ヲ經過シタルトキハ

之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　第一條ノ酒精ニ對シ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ變性ヲ命スルコトヲ得

第五條　第一條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ造石税又ハ出港税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス（大正元年法律第二號改正）

第二條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ造石税又ハ出港税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石税又ハ出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求シタル者ハ其ノ造石税又ハ出港税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七條　間接國税犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附　則

醫藥用工業用酒精戻税法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行後三箇月迄ニ造石税ノ賦課ヲ受ケタル醫藥用酒精ノ税金下戻ニ關シテハ本法施行後六箇月ヲ限リ醫藥用工業用酒精戻税法ヲ適用ス

○工業用酒精酒類其ノ他ノ酒精含有飲料戻税法施行規則

（明治三十九年四月二十四日勅令第八十六號）

改正　大正元年八月二十日勅令第十號
同　六年十二月十三日勅令第二百二十九號
同　十一年六月二十八日勅令第三百三十三號
同　十五年五月五日勅令第九十六號

第一條　酒精ヲ左ニ掲クル物品ノ製造ニ使用シタルトキハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料税戻法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得（大正六年勅令第二百二十九號改正）（大正十一年勅令第三百三十三號改正）（大正十五年勅令第九十六號改正）

一　食酢
二　タンニン酸
三　苛性加里
四　クロロフォルム
五　ヨードフォルム
六　エーテル
七　醋酸エーテル
八　脂肪酸エーテル
九　クロールエチール

十　ブロームエチール
十一　ヨードエチール
十二　エチール硫酸鹽類
十三　ベンチヂン
十四　トリヂン
十五　エチールアニリン
十六　パラフェニレンダイアミン（パラミン）
十七　アリザリンブリュー
十八　サルファーブリュー
十九　アセチールサリチール酸（アスピリン）
二十　サリチール酸フェニール（ザロール）
二十一　フェナセチン
二十二　モノフェニール尿素
二十三　硫酸キニーネ
二十四　鹽酸キニーネ
二十五　エチール炭酸キニーネ（オイヒニン）
二十六　炭酸グアヤコール（ゾオタール）
二十七　硫酸アトロピン
二十八　ブローム樟脳
二十九　抱水クロラール
三十　ブロテイン銀（ブロタルゴール）
三十一　ヘキサメチレンテトラアミン（ウロトロピン）
三十二　サルヴァルサン類
三十三　ヴィタミン類
三十四　ヂアスターゼ類
三十五　樟脳
三十六　龍脳
三十七　シトロネロール
三十八　ゼラニオール
三十九　燃料用變性酒精
四十　ヴァニシュ（尼斯）
四十一　コロヂオン（瓦斯マントル、寫眞材料、寫眞製版若ハ擬革ノ製造又ハ塗料ニ供スルモノニ限ル）
四十二　セリュロイド
四十三　火藥

四十四　石鹼

四十五　外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液

四十六　外國ニ輸出スル煙草香料

四十七　外國ニ輸出スル擬眞珠

第二條　酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル者ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第二條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三條　工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲ス爲酒精使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ數量、使用ノ目的、場所及日時ヲ定メ所轄稅務署ニ申請スヘシ

第四條　前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ハ酒精ノ使用前其ノ數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ使用ノ承認ヲ與フヘシ但シ申請ノ場所及日時ニ於テ其ノ目的ニ從ヒ使用セスト認ムルトキハ其ノ承認ヲ取消スコトヲ得

當該官吏ハ前項ニ依リ承認ヲ與ヘタル酒精ヲ使用スル場所ニ就キ酒精、酒精ト混和スヘキ物品、製品、殘渣、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル方法ヲ施スコトヲ得當業者前項ノ檢査又ハ處分ヲ拒ムトキハ當該官吏ハ既ニ與ヘタル承認ヲ取消スコトヲ得

第五條　酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用スルニ際シ作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ稅務署ニ申出テ其ノ數量及含有純酒精ノ容量ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第六條　工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル申請書ハ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ樺太酒類出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ之ヲ樺太廳ニ提出スヘシ（大正元年勅令第十號但書追加）

酒精ヲ外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液、煙草香料又ハ擬眞珠ノ製造用ニ供シ金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添付スヘシ（大正六年勅令第二百二十九號改正）（大正十五年勅令第九十六號追加）

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第一條ニ依リ樺太酒類出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スヘシ（大正元年勅令第十號追加）

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第二條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第七條　工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二　使用シタル酒精ノ數量、使用ノ目的及使用ノ日
三　政府ニ供給シタル酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量及供給ノ日
四　製品アルトキハ其ノ種類、數量及其ノ製造ノ日
五　作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量
六　殘渣アルトキハ其種類、數量及處理ノ顚末（大正十五年勅令第九十六號追加）

第八條　當該官吏ハ第一條ノ工業用ニ酒精ヲ使用スル者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第九條　本令中稅務署トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳トス（大正元年勅令第十號追加）

附　則

本令ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年勅令三百三十三號）

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年勅令第九十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣酒精令ニ依ル酒精使用證明ニ關スル規定ノ件（大正十一年六月一日勅令第三百五號）

臺灣酒精令第十四條ノ規定ニ依リ酒精ヲ工業用ニ使用シ又ハ供給シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第三百四十五號ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依リ爲シタル證明書交付ノ申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量等ニ關スル件（大正十五年五月五日大藏省令第二十二號）

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法第四條ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量等左ノ通相定ム

第一條　左ニ揭クル物品ノ製造ニ使用スル酒精ノ變性ニ際シ酒精一石ニ付混和スヘキ物品及其ノ數量ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一　食酢

酸量（醋酸トシテ）一「パーセント」以上、酒精分十五「パーセント」以下トナル程度以上ノ種酢又

ハ種酢及水

二　タンニン酸

樟腦油(赤油又ハ白油)六百匁以上

五倍子末三十貫匁以上

三　クロロフォルム

「クロール石灰」(有效「クロール」三十「パーセント」以上ヲ含有スルモノ)五十貫匁以上比重一、四九ノ「クロロフォルム」五百匁以上

四　ヨードフォルム

「アセトン」、「アセトン油」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ三貫五百匁以上

「ヨード」及「ヨードフォルム」各三百五十匁以上

五　エーテル

「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上

比重〇、七三以下ノ「エーテル」五百匁以上及比重一、八三以上ノ硫酸五百匁以上又ハ「エーテル」殘渣五貫匁以上

六　醋酸エーテル

「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上

比重一、八三以上ノ硫酸五百匁以上及「醋酸ナトリウム」又ハ比重一、〇四以上ノ醋酸五百匁以上

比重〇、九一以下ノ「醋酸エーテル」五百匁以上

七　脂肪酸エーテル

「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上

「アセトン」、「アセトン油」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ三貫五百匁以上

脂肪酸エーテル及脂肪酸類(醋酸石灰ヨリ醋酸ヲ製造スル際ニ副生スル「プロピオン酸」、「ブチール酸」、纈草酸及少量ノ醋酸ノ混合物)ヲ等量ニ混和シタルモノ五百匁以上

八　クロールエチール

「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上

比重一、八三以上ノ硫酸五百匁以上

「クロールエチール」五百匁以上

九　ブロームエチール

「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上

比重一、八三以上ノ硫酸五百匁以上及「ブローム加里」三貫五百匁以上
比重一、四五以上ノ「ブロームエチール」五百匁以上

十　ヨードエチール
「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上
「ヨード」三貫五百匁以上及赤燐五百匁以上
比重一、九四以上ノ「ヨードエチール」五百匁以上

十一　エチール硫酸鹽類
「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上
比重一、八三以上ノ硫酸十貫匁以上
「エチール硫酸鹽類」五百匁以上

十二　ベンチヂン又ハトリヂン
「アニリン」五貫匁以上及木精三貫五百匁以上
各製品三百五十匁以上又ハ各其ノ製造殘渣五百匁以上

十三　エチールアニリン
「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上
「アニリン」三十五貫匁以上及「鹽酸アニリン」二十貫匁以上
「エチールアニリン」三百五十匁以上

十四　パラフェニレンダイアミン(パラミン)
「アニリン」十貫匁以上、木精四貫匁以上及鹽酸三貫五百匁以上

十五　樟腦
「エーテル」、「ベンゾール」、「石油ベンヂン」、「クロロフォルム」、二硫化炭素、四鹽化炭素ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上
山製樟腦、再製樟腦ノ一種又ハ二種ヲ通シテ一貫匁以上

十六　龍腦
「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上
樟腦三貫五百匁以上

十七　シトロネロール又ハゼラニオール
「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色料一「グラム」以上
山椒油一貫五百匁以上及「シトロネロール」又ハ「ゼラニオール」三百五十匁以上

十八　燃料用變性酒精

「エーテル」、「ベンゾール」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ十貫匁以上

「ピリヂン鹽基」二貫匁以上又ハ「アセトン油」一貫五百匁以上及「アムモニア水」(日本藥局方)三百八十匁以上

十九　ヴァニシュ(尼斯)

樟腦、樟腦油(赤油又ハ白油)ノ一種又ハ二種ヲ通シテ五百匁以上

樹脂又ハ樹脂類似品八貫四百匁以上

二十　瓦斯マントル用コロヂオン

「アセトン」、「アセトン油」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ三貫五百匁以上

「エーテル」三十五貫匁以上及硝化綿二貫匁以上

二十一　寫眞材料用又ハ寫眞製版用コロヂオン

「エーテル」三十五貫匁以上及硝化綿二貫匁以上

尙「コロヂオン」十貫匁ニ付「臭化カドミウム」及「臭化アムモニウム」各二十匁以上又ハ硝酸銀四百五十匁以上及「臭化リヂウム」若ハ「鹽化リヂウム」十二匁以上ヲ混和スヘシ

二十二　擬革用又ハ塗料用コロヂオン

「エーテル」、「アセトン」、「アセトン油」、「テレビン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上

飴狀ヲ呈スル程度ノ硝化綿

二十三　セリュロイド

「エーテル」、「アセトン」、「アセトン油」、「テレビン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上

餅狀ヲ呈スル程度ノ硝化綿及樟腦又ハ餅狀ヲ呈スル程度ノ「セリュロイド」

二十四　火藥

(イ)　雷汞

再餾凝縮液一貫六百匁以上

(ロ)　爆粉

凝縮液二貫匁以上及再餾酒精四貫二百匁以上

(凝縮液トハ雷汞化成作業中蒸發スル瓦斯ヲ凝縮瓶ニ導キ凝縮セシメタルモノニシテ水分、酒精、「アルデヒード」及「硝酸エーテル」等ヲ含有スル液ヲ謂ヒ、再餾凝縮液トハ凝縮液ヲ石灰ニテ中和シ蒸餾シタルモノニシテ酒精、「アルデヒード」及「硝酸エーテル」等ヲ含有スル液ヲ謂ヒ、再餾酒精トハ爆粉製造ノ際使用シタル稀薄酒精ヲ再餾シタルモノニシテ七十三乃至八十七「パーセント」ノ酒精分ヲ含有スル液ヲ謂フ)

二十五　石鹼

苛性曹達百二十匁以上ノ水溶液

樟腦油(赤油又ハ白油)若ハ芳香性揮發油二百五十匁以上又ハ香料及石鹼ノ適量

二十六　外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液又ハ煙草香料
使用スヘキ原料品ノ全部

二十七　外國ニ輸出スル擬眞珠

樟腦、樟腦油(赤油又ハ白油)五百匁以上及「アセトン」、「アセトン油」、「テレビン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上

二十八　苛性加里、アリザリンブリュー、サルファーブリュー、アセチールサリチール酸(アスピリン)、サリチール酸フェニール(ザロール)、フェナセチン、モノフェニール尿素、硫酸キニーネ、鹽酸キニーネ、エチール炭酸キニーネ(オイヒニン)、炭酸グアヤコール(ヅオタール)、硫酸アトロピン、ブローム樟腦、抱水クロラール、プロテイン銀(プロタルゴール)、ヘキサメチレンテトラアミン(ウロトロピン)サルヴァルサン類、ヴィタミン類、ヂアスターゼ類
木精、「ベンゾール」、「石油ベンヂン」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上各製品三百五十匁以上又ハ各其ノ製造殘渣五百匁以上

第二條　前條ノ規定ニ據リ難キ場合ニ於テ所轄稅務署ノ承認ヲ得タルトキハ其ノ變性方法ノ一部又ハ全部ヲ變更スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年大藏省令第三十六號ハ之ヲ廢止ス

○南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ出港稅ノ免除等ニ關スル件

(大正十五年九月二十日勅令第三百十號)

第一條　南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ其ノ猶豫期間內ニ內地ヨリ外國ニ輸出シタルトキ又ハ內地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ規定スル例ニ從ヒ工業用ニ使用シ若ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ出港稅ヲ免除ス

第二條　南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレ其ノ納付濟ナル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シ又ハ內地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ノ規定スル例ニ從ヒ工業用ニ使用シ若ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ其ノ出港稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第三條　前二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ輸出後又ハ工業用ニ使用若ハ供給ノ後一年內ニ各場合ニ應シ左ノ書類ヲ添附シ移出港ヲ管轄スル南洋廳支廳ニ請求書ヲ提出スヘシ

一　輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）、輸出免狀及外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スル書類

二　工業用ニ使用シ又ハ供給シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）及工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトヲ證明スル書類

第四條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅關ニ、內地ニ於テ工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第五條　明治三十四年法律第十號施行規則及工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法施行規則ハ本令ノ施行ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○麥酒稅法

（明治三十四年三月三十日法律第十二號）

改正　明治三十八年一月　一　日法律第　五　號
同　四十一年三月　十　六日法律第　二十　號
大正　七　年三月二十三日法律第　八　號
同　九　年七月三十一日法律第十　六號
同　九　年八月　十　日法律第五十八號
同　十五　年三月二十七日法律第　十　七號

第一條　麥酒（ビール）ニハ本法ニヨリ麥酒稅ヲ課ス

本法ニ於テ麥酒ト稱スルハ麥芽、「ホップ」及水ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ（明治三十八年法律第五號本項追加）

前項原料ノ外總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍、馬鈴薯、澱粉又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス（同上）（明治四十一年法律第二十號改正）（大正九年法律第五十八號改正）

第二條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條　麥酒稅ハ麥酒一石ニ付二十五圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス（明治四十一年法律第二十號改正）（大正七年法律第八號改正）（大正九年法律第十六號改正）（大正十五年法律第十七號改正）

第三條ノ二　政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數千石以上ニ非サレハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘス

麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル麥酒税ヲ課ス（明治四十一年法律第二十號本條追加）

第四條　麥酒税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス（明治四十一年法律第二十號改正）

前條第二項ニ依ル麥酒税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス（同上追加）

第五條　第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國税徴收法第四條ノ一ニ依リ麥酒税ヲ徴收スル場合ニ於テハ納税ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得（同上改正）

第六條　麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ付キ其製造石數ヲ査定シ麥酒税ヲ課ス

第七條　災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十條　收税官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　免許ヲ受スシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ麥酒及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス（明治四十一年法律第二十號改正）

第十二條　麥酒ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ麥酒税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條　麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條　麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　收税官吏其職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、〔再犯加重〕、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用ヰス但

シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十九條ノ二　第十二條乃至第十四條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ麥酒ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ麥酒製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得（大正七年法律第七號本項改正）

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス（明治四十一年法律第二十號本條追加）

第二十條　麥酒製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ麥酒税完納前ニアリテハ總テ本法ノ規定ニ從フ（同上改正）

第二十條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル麥酒ハ本法ト同一ノ税率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯スモノハ其石數ニ應シ第三條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス（同上本條追加）

前項ノ麥酒及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附　則

第二十一條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以内ニ於テ製造場一箇所毎ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

附　則（明治三十八年法律第五號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年法律第二十號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第三條ノ二第二項ノ規定ヲ適用ス

非常特別税法中麥酒ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正七年法律第八號）

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ麥酒ヲ製造セサルモノニ付テハ第十九條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附　則（大正九年法律第十六號）

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年法律第十七號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○麥酒稅法施行規則

（明治三十四年八月二十四日勅令第百六十八號）

改正　明治三十八年一月一日勅令第五號
同　四十一年三月十六日勅令第四十號

第一條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ（明治三十八年勅令第五號改正）

第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ（明治三十八年勅令第五號追加）

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　麥酒稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條　麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場每ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外麥酒製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ麥酒製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ麥酒稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ（明治三十七年勅令第五號本項改正）

第六條ノ二　麥酒製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ（明治三十八年勅令第五號追加）

第七條　麥酒製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二　變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ麥酒稅法第三條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以內ニ之ヲ爲スヘシ（明治四十一年勅令第四十號追加）

第八條　製造石數査定ハ濾過シタル時ニ於テス

第九條　麥酒釀造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條　麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニアリテハ引取ノ日及其引取先

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル麥酒ノ數量及其ノ製成ノ日

四　他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條　麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先

二　販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條　收稅官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ麥酒製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ（明治三十八年勅令第五號改正）

清涼飲料稅

一　麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ
二　醱酵液ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ
三　麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ
四　麥酒ノ殘滓等ヲ用ヰ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ
五　麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ
六　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
七　製酒場外ヨリ製造場内ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ
八　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十六條　麥酒稅法第十九號ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ麥酒製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ

（明治四十一年勅令第四十號本條改正追加）

第十七條　收稅官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十八條　本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限リ麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ製造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

附　則（明治三十七年勅令第五號）

酒稅　麥酒稅法施行規則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年勅令第四十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉清涼飲料稅

○清涼飲料稅法（大正十五年三月二十七日法律第十六號）

第一條　本法ニ於テ清涼飲料ト稱スルハ炭酸瓦斯ヲ含有スル飲料ヲ謂フ但シ全重量ノ萬分ノ五以下ノ炭酸瓦斯ヲ含有スルモノ及全容量ノ百分ノ一以上ノ純酒精ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ヲ謂フ

第二條　清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料稅ヲ課ス

第一種　玉ラムネ壜詰ノモノ　一石ニ付　七　圓

第二種　其ノ他ノ壜詰ノモノ　一石ニ付　十　圓

第三種　壜詰以外ノモノ　炭酸瓦斯使用量一瓩ニ付　三　圓

第三條　清涼飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ容器ニ充塡スルコトハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ第二種ノ清涼飲料ノ製造ト看做ス天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ原料トシテ第三種ノ清涼飲料ヲ製造スルコト亦同シ

第四條　清涼飲料稅ハ第一種及第二種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル石數ニ應シ、第三種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル炭酸瓦斯ノ量ニ

應シ清涼飲料製造者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條　清涼飲料ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ製造場外ニ移出セラレタルモノト看做ス

一　製造場內ニ於テ飲用セラレタルトキ

二　製造場內ニ現存スルモノ公賣セラレタルトキ

三　製造免許取消ノ場合ニ於テ製造場內ニ現存スルトキ

第六條　清涼飲料製造者ハ每月其ノ製造場外ニ移出シタル清涼飲料ニ付第二條ノ區分每ニ其ノ石數又ハ炭酸瓦斯使用量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ但シ前條第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ課稅標準額ヲ決定ス

第七條　清涼飲料稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ第五條第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第八條　清涼飲料製造者カ外國ニ輸出スル目的ヲ以テ製造場外ニ移出スル清涼飲料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ清涼飲料稅ヲ免除ス

前項ノ清涼飲料ニシテ製造場外ニ移出セラレタル後六月以內ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ依リ亡失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　前條第一項ノ清涼飲料ハ之ヲ內地ニ於テ消費シ又ハ內地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スルコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル事由ニ因リ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ承認ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ納付スヘシ

第十條　政府ハ清涼飲料稅ニ付必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅ノ保證トシテ清涼飲料製造者ニ對シ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十一條　清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ハ清涼飲料ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ帳簿ニ記載スヘシ

清涼飲料ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ清涼飲料ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條　收稅官吏ハ清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ所持ニ係ル清涼飲料、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及清涼飲料ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器具、器械、原料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　製造免許ヲ受ケスシテ清涼飲料ヲ製造シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス

前項ノ清涼飲料竝其ノ容器、器具及器械ハ之ヲ沒收ス

第十四條　清涼飲料ノ製造者第六條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ清涼飲料稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫ヲ圖リタル者ハ其ノ清涼飲料稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第十六條　清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者清涼飲料ノ製造出入ニ關スル帳簿書類若ハ原料ヲ隱匿シ又ハ帳簿ノ記載若ハ第十一條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ若ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條　收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條　清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十九條　第十條ノ規定ニ依ル擔保ヲ提供セサル者、第十四條若ハ第十五條ノ規定ニ依リテ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ清涼飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ清涼飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル清涼飲料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ清涼飲料ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ石數ニ應シ第二條第二種ノ稅率ニ依リ算出シタル清涼飲料稅ヲ徵收ス

前項ノ清涼飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第二十一條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第十七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　第十一條、第十二條、第十六條乃至第十八條及第二十一條ノ規定ハ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス

炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル清涼飲料ノミヲ製涼スル者ニハ本法ヲ適用セス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スル者本法施行後一月以內ニ其ノ旨政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ製造免許ヲ受ケタルモノト看做ス

○清涼飲料稅法施行規則

（大正十五年三月三十一日勅令第三十三號）

第一條　清涼飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署長ハ清涼飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルコトヲ得

一　著シク交通不便ナル地ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ

二　清涼飲料稅法第十九條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者其ノ他稅務署長ニ於テ免許ヲ與フ

ルニ不適當ト認メタル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條　清涼飲料ノ製造場ハ其ノ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條　清涼飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ圖面、製造用器具器械ノ目錄及清涼飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名若ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　清涼飲料ノ製造者カ製造ニ著手セムトスルトキ、一月以上製造ヲ休止セムトスルトキ又ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキハ其ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ其ノ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第六條　清涼飲料ノ製造者ハ毎年二月中ニ其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ期間ニ於テ製造スル清涼飲料ニ付第一種及第二種ニ在リテハ製造見込石數、第三種ニ在リテハ炭酸瓦斯使用見込數量ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ見込石數又ハ見込數量ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　清涼飲料ノ製造者死亡又ハ隱居シタルトキハ相續人ハ其ノ旨ヲ直ニ所轄稅務署ニ申告シ製造免許ノ承繼ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外涼清飲料ノ製造業ヲ承繼セムトスル者ハ製造者ト連署シタル製造免許承繼ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第八條　清涼飲料ノ製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ製造場ヲ定メテ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　清涼飲料ノ製造者製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十條　清涼飲料稅法第六條ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署ニ之ヲ提出スヘシ

清涼飲料ノ製造者前項ノ申告書ヲ提出セス又ハ稅務署長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ稅務署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スヘシ

第十一條　外國ニ輸出スル清涼飲料ニ付清涼飲料稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ移出スル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條　前條ノ清涼飲料ニ付輸出ノ證明ヲ爲サムトスルトキハ移出後六月以內ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十三條　外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場外ニ移出シタル清涼飲料ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ製造者ハ其ノ事實ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所カ前項稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事由ヲ申

告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ承認ヲ爲シタル稅務署ハ其ノ旨ヲ直ニ製造場所轄稅務署ニ通知スヘシ

第十四條　清涼飲料稅法第九條第一項但書ノ規定ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ清涼飲料カ前項稅務署ノ管轄外ニ在ルトキハ其ノ所在地所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ所在地所轄稅務署ヨリ承認書ノ交付ヲ受ケ之ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ承認書ノ交付ヲ爲シタル稅務署ハ其ノ旨ヲ直ニ製造場所轄稅務署ニ通知スヘシ

製造場所轄稅務署第一項ノ申請ニ因リ承認ヲ爲シ又ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收スヘシ

第十五條　外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場外ニ移出スル清涼飲料ニ付テハ稅務署長ハ清涼飲料ノ製造者ニ對シ清涼飲料稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十六條　清涼飲料ノ製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅務署長ハ清涼飲料ノ製造者ニ對シ第六條ノ期間ニ於ケル清涼飲料製造見込石數又ハ炭酸瓦斯使用見込數量ニ對スル稅額ノ四分ノ一ニ相當スル金額ノ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

一　清涼飲料稅法ヲ犯シテ處罰又ハ處分セラレタルトキ

二　清涼飲料稅ニ付滯納處分ヲ受ケタルトキ

三　清涼飲料稅ノ逋脫ヲ圖ルノ行爲アリト認ムルトキ

第十七條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提出スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ共託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

第十八條　擔保物ヲ提供シタル者清涼飲料稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十九條　清涼飲料ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類及數量、他ヨリ引取リタル原料ニ在リテハ尙引取ノ日並其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日

三　製造シタル清涼飲料ノ種類數量及製造ノ日
四　移出シタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及移出ノ日竝其ノ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱
　小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號ノ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十條　清涼飲料ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一　引取リタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及引取ノ日竝其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱
二　販賣シタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及販賣ノ日竝其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱
　小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十一條　清涼飲料ノ製造者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ其ノ承認ヲ受クヘシ
一　製造ニ著手セムトスルトキ
二　原料ヲ清涼飲料ノ製造以外ニ使用セムトスルトキ
三　製造場ト同一場所ニ於テ小賣販賣業ヲ兼營セムトスルトキ
四　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第二十二條　第一條、第五條、第七條乃至第九條、第十九條及第二十條ノ規定ハ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス但シ同規定中免許、免許取消又ハ許可ノ申請ヲ要スル事項ニ付テハ申告書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第二十三條　收稅官吏ハ清涼飲料又ハ炭酸瓦斯ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得タル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正十五年四月一日之ヲ施行ス
清涼飲料稅法附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シタル申告書ニ清涼飲料稅法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ第四條第一項ノ書類ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ
本令施行前ヨリ引續キ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ハ本令施行後一月以內ニ第一條ニ準シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
大正十五年ニ限リ第六條ノ規定中二月中トアルハ四月中トス

○清涼飲料水營業取締規則

（明治三十三年六月五日　內務省令第三十號）
改正　明治三十九年內務省令第九號　同四十三年內務省令第二十六號　大正十二年內務省令第七號

第一條　本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」「リモナーデ」（果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム）曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水竝果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノヲ謂フ
清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造（清涼飲料水ニ供スル鑛泉ノ採取ヲ含ム以下倣之）、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條　清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ檢査セシムヘシ

第三條　清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタル調製器、容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鍍錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ有害性「テール」色素、「サツカリン」其ノ他人工甘味質有害性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

「テール」色素ハ前項以外ノモノト雖モ製造地地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一　溷濁又ハ變敗シタルモノ

二　沈澱物又ハ固形ノ夾雜物アルモノ

三　鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離鑛酸ヲ含有スルモノ

四　砒素、安知母紐謨、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ

五　有害性其ノ他製造地又ハ輸入地地方長官ノ許可ヲ受ケサル「テール」色素ヲ含有スルモノ

六　「サツカリン」其ノ他人工甘味ヲ含有スルモノ

七　有害性芳香質ヲ含有スルモノ

八　防腐劑ヲ含有スルモノ

果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノノ中原料トシテ使用スル果實ノ類、砂糖及水ノ外他物ヲ混和セサル製品ニ就テハ前項第一號及第二號ノ規定ハ原料植物ノ組織及成分ニ基因スル場合ニ限リ之ヲ適用セス但シ變敗シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在竝製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ但シ製造地地方長官ニ於テ許可シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

「テール」色素ヲ含有スル清涼飲料水ニハ製造者又ハ輸入者ハ其ノ容器ニ人工着色ノ文字ヲ明記スヘシ

第七條　清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造場其ノ他清涼飲料水ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條　清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、黴毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製若ハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條　地方長官ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一

條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコト

第十一條　清涼飲料水營業者虚僞ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若ハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虚僞ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第十二條　左ニ掲クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一　認可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者

二　第三條乃至第五條ニ違背シタルモノ

第十三條　第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　清涼飲料水營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス

清涼飲料水營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附則

第十五條　本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設ルコトヲ得

第十七條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律

（明治三十三年二月二十四日法律第十五號）

第一條　販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業上ニ使用スル飲食器、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二條　行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ檢査セシメ試驗ノ爲必要ナル分量ニ限リ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カルル間ニ限リ物品ヲ製造シ

14
38

砂糖稅

採取シ陳列シ貯藏シ若ハ携帶スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

第三條　本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間內ニ之ヲ履行セサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ニ抗拒シタル者ハ一月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

第四條　官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔四十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法〔第二百八十四條〕ノ例ニ照シテ處斷ス

附　則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉砂糖稅

○砂糖消費稅法（明治三十四年三月三十日法律第十三號）

改正　明治三十五年三月十二日法律第二一號
同　三十八年二月二十四日法律第二六號
同　四十二年四月一日法律第二〇號
同　四十三年四月一日法律第三三號
同　四十四年四月一日法律第五七號
大正　五年四月十九日法律第三八號

第一條　內地消費ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス（大正五年法律第三八號改正）

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其消費ト看做ス

第三條　消費稅ノ割合左ノ如シ（明治四十一年法律第一號改正）（明治四十二年法律第二〇號改正）（明治四十三年法律第三三號改正）（明治四十四年法律第五十七號改正）

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭蘭標本第十一號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　金二圓

甲　樽入黑糖

乙　樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク　百斤ニ付　金二圓五十錢

丙　其ノ他ノモノ

第二種　砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　金三圓
第三種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　金五圓
第四種　砂糖色相和蘭標本第二十一號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　金七圓
第五種　砂糖色相和蘭標本第二十一號以上ノ砂糖　百斤ニ付　金八圓
第六種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ　百斤ニ付　金九圓
第七種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜　百斤ニ付　金十圓

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　金三圓

乙　其ノ他ノモノ　糖分蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付金九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　金二圓

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　金三圓

三　糖水　百斤ニ付　金八圓

第四條　前條ノ消費稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得（大正五年法律第三十八號本條改正）

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス（同上）

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ消費稅ヲ課セス（同上）

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月以內ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第六條　第四條第一項但書、前條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス（同上）

第七條　第四條第一項但書、第五條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス（同上本項改正）

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅納付前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタ

ル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス（明治四十三年法律第三十三號本項追加）（大正五年法律第三十八號本項改正）

前項ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ其ノ移出先ニ移入セラレサルトキハ移入者ヨリ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス（大正五年法律第三十八號本項追加）

第八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條ノ二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場ト區劃シタル場合ハ此ノ限リニ在ラス（明治四十三年法律第三十三號本項追加）

第九條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スルモノ之ヲ販賣スルモノ又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ（同上改正）

第十條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得（同上）

第十一條ノ一　政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス（明治三十五年法律第二十一號本條改正第）（大正五年法律第三十八號改正）（大正五年法律第三十八號改正）

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以內ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニヨリ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス（明治三十八年法律第二十六號本項追加）（大正五年法律第十八號本項改正）

第四條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス（大正五年法律第十八號本項改正）

第十一條ノ二　政府ノ承認ヲ受ケ飲食スヘカラサル處置ヲ施シ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス（明治三十五年法律第二十一號追加）（大正五年法律第三十八號改正）

第十一條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト看做ス（明治四十三年法律第三十三號追加）

一　砂糖ニ加工ヲ爲シテ其ノ種別ヲ上昇シタルトキ

二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ增加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　政府ノ承認ヲ受ケ消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ以テ製造スル糖水ニ付テハ本法ヲ適用セス（大正五年法律第三十八號追加）

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ消費稅六圓未滿ナルトキハ罰金額ハ三十圓トス（大正五年法律第三十八號改正）

一　第六條又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタルトキ

三　前二號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫ヲ圖リタルトキ

第十三條ノ二　第八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル（明治四十三年法律第三十三號追加）（同上）

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス（明治四十三年法律第三十三號改正）（大正五年法律第三十八號改正）

第十五條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルモノハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル（同上）（同上）

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス（大正五年法律第三十八號改正）

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス（明治四十三年法律第三十三號改正）

第十七條ノ二　本法ニ於テ保稅地域ト稱スル關稅法ノ定ムル所ニ依ル（大正五年法律第三十八號追加）

附　則

第十八條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

附　則（明治三十五年法律第二十一號）

本法施行前ニ於テ消費稅ヲ課セラレタル砂糖又ハ糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（明治四十一年法律第一號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中砂糖消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十三年法律第三十三號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十四年法律第五十七號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年法律第三十八號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○砂糖消費稅法ヲ臺灣ニ施行スル件（明治三十四年八月勅令第百五十五號）

砂糖消費稅法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

前項ノ法律ノ施行規則ハ臺灣總督之ヲ定ム

○砂糖消費稅法施行規則（明治三十四年八月二十四日勅令第百六十九號）

改正　明治三十五年三月二十六日勅令第五十一號
同　三十五年十一月一日勅令第二百五十二號
同　三十七年四月九日勅令第百八號
同　三十八年五月二十二日勅令第百七十號
同　四十三年二月九日勅令第八號
同　四十三年五月十日勅令第二百二十四號
大正　三年三月十九日勅令第三十四號
同　五年四月十九日勅令第百十五號
同　九年十二月二十八日勅令第五百八十四號
同　十一年三月三十一日勅令第百七十三號
同　十二年六月二十七日勅令第三百二十號

第一條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條　製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條　砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造着手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ着手セムトスル時亦同シ

第五條　第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水、其ノ原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第八條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條　砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスル者ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別、斤數、移出ノ日、移出先、移入者及移出先到達豫定日ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ（大正三年勅令第三十四號改正）（大正五年勅令第百十五號改正）

前項ノ申告アリタルトキハ取締上支障ナシト認ムル場合ニ限リ移出ノ承認ヲ爲スヘシ

前項ノ承認ヲ爲シタル場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第九條ノ二　內地移入糖ハ砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ニ移入スヘシ

第九條ノ三　移入場ノ指定ハ移入場主ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス（大正三年勅令第三十四號本條準如）

前項ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ倉庫ノ所在地、名稱、所有者ノ住所氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル申請書ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添付シ大藏大臣ニ提出スヘシ

大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ移入場主ニ對シ內地移入糖ノ藏置ニ關シ條件ヲ指定シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ニ關シ相當ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ條件ニ從ハス又ハ設備ヲ爲ササルトキハ移入場ノ指定ヲ取消シ又ハ內地移入糖ノ移入ヲ停止スルコトヲ得

第九條ノ四　內地移入糖ヲ積載シタル船舶移入地ニ到達シタルトキハ船長ハ到達ノ時ヨリ二十四時內ニ其ノ旨移入地所轄稅務署ニ申告シ且當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出スヘシ（同上）

第九條ノ五　移入地ニ到達シタル內地移入糖ハ收稅官吏ノ指揮ニ從ヒ積卸ヲ爲シ移入場ニ庫入スヘシ（同上）

第九條ノ六　移入場庫入前內地移入糖ニ付砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依ル原料引取ノ申告ヲ爲シ移入地所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ移入場ニ庫入ヲ爲サスシテ直ニ之ヲ砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造場ニ引取ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ移入場ニ庫入アリタルモノト看做シ引取ノ承認ヲ爲シタルトキヲ以テ移入場ヨリ引取リタルモノト看做ス（同上）

第九條ノ七　內地移入糖ノ移入者ハ當該官廳ノ下付シタル移出承認書ノ回付ヲ受ケ置キ內地移入糖ヲ移入シタルトキ直ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ移入ノ證明ヲ受クヘシ（同上）

第九條ノ八　內地移入糖ヲ船積シタル後移入者ニ於テ其ノ移入地ヲ變更セムトスルトキハ其ノ旨新移入地所轄稅務署ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ（同上）

第九條ノ九　內地移入糖ヲ船積シタル後移入地到達前ニ於テ內地移入糖ノ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄稅務署ニ申告シ當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ(同上)

前項ニ依リ積換ヲ爲シタルトキハ船長ハ前項積載明細書ニ準シ更ニ積載明細書ヲ作成シ當該稅務署ニ提出シ其ノ證明ヲ受クヘシ

第九條ノ十　船積シタル內地移入糖天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ船長ハ直ニ最寄稅務署ニ其ノ事實ヲ申告シ證明書ノ下付ヲ受クヘシ(同上)(大正五年勅令第百十五號改正)

前項ノ證明書又ハ當該官廳ノ下付シタル亡失證明書ハ第九條ノ四ノ規定ニ依ル積載明細書ノ提出ト同時ニ移入地所轄稅務署ニ之ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ(同上)(同上)

第九條ノ十一　移入場ニ於ケル內地移入糖ノ藏置ニ關シテハ收稅官吏ノ指揮ニ從フヘシ(大正三年勅令第三十四號改正)

第九條ノ十二　所轄稅務署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移入場ニ於ケル藏置期間ヲ指定スルコトヲ得(同上)

第十條　製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ引取ノ目的及砂糖消費稅法第三條ノ種別、斤數ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ(大正三年勅令第三十四號改正)

第十一條　砂糖消費稅法第四條第一項但書、同法第五條第一項、同法第十一條ノ一第一項又ハ同法第十一條ノ二ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其旨所轄稅務署ニ申請スヘシ(明治三十五年勅令第五十五號改正)(大正五年勅令第百號改正)(大正五年勅令第百十五號本條改正)

砂糖消費稅法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際引取ノ時期竝輸出先又ハ製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申告スヘシ(同上)

砂糖消費稅法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ニ付テハ第九條第三項ヲ準用ス(同上)(大正三年勅令第三十四號改正)(大正五年勅令第百十五號改正)

第十一條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ原料引取ノ承認ヲ請フ者アル場合ニ於テ所轄稅務署ニ於テ必要ト認ムルトキハ每回ノ引取斤數ヲ制限スルコトヲ得(大正三年勅令第三十四號追加)

第十一條ノ三　砂糖消費稅法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者糖蜜ニ飲食スヘカラサル處置ヲ施サムトスルトキハ其ノ方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ(大正五年勅令第百十五號追加)

第十一條ノ四　砂糖消費稅法第十二條ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ豫メ糖水ノ製造方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ(同上)

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署ハ糖水ノ原料タル砂糖ノ種別ヲ制限スルコトヲ得(同上)

第十一條ノ五　砂糖消費稅法第五條第一項、同法第七條第二項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リ又ハ移出シタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ引取人又ハ移入者ハ其ノ事實ヲ引取ノ場所又ハ移入地ヲ管轄スル稅務署ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所カ前項稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項申告ノ際之ヲ提出スヘシ

前二項ノ規定ハ第九條ノ十ノ場合ニ之ヲ適用セス（同上）

第十二條　第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲナシ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ但シ豫メ納稅擔保ヲ提供シタルモノニ付テハ其ノ都度擔保額ノ指定ヲ要セス（明治三十五年勅令第五十一號改正及明治四十三年勅令第八號但書追加）

第十三條　收稅官吏ハ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ限リ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得（大正十一年勅令第百七十三號改正）

納稅義務者ハ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ（明治三十七年勅令第百八號改正（同上）

東京府管下、鹿兒島縣管下ノ島嶼及沖繩縣ニ於テハ前項斤數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得（明治三十八年勅令第百七十號本項追加）

第十四條　收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條　擔保物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル（明治三十五年勅令第五十一號改正）（明治四十三年勅令第八號本條改正）（大正九年勅令第五百八十四號改正）

一　金錢

二　國債

三　工場財團

第十五條ノ二　擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル（明治四十三年勅令第八號本條追加）

第十五條ノ三　擔保トシテ金錢、無記名國債證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ（同上）（大正九年勅令第五百八十四號改正）

擔保トシテ登錄國債ヲ提供セムトスルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出ス可シ（大正九年勅令第五百八十四號本項追加）

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタルモノアルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ囑託スヘシ（同上）（大正十二年勅令第三百二十號改正）

第十六條　稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得（明治四十三年勅令第八號本條改正）

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ所轄稅務署ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ（大正九年勅令第五百八十四號本項改正）

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十七條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ稅關、砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス（明治三十五年勅令第五十一號改正）（大正三年勅令第三十四號改正）

第十八條　砂糖消費稅法第五條第一項ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ付輸出ノ證明ヲ爲サムトスルトキハ引取後六月內ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得（大正五年勅令第百十五號本條追加）

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十八條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取リタル砂糖、糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタル場合ニ於テ砂糖、糖蜜ヲ引取リタル場所ヲ管轄スル稅務署ト砂糖、糖水、酒精ノ製造場ヲ管轄スル稅務署ト異ナルトキハ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ砂糖、糖蜜ヲ引取リタル場所ヲ管轄スル稅務署ニ提出スヘシ（明治三十五年勅令第五十一號追加）（大正五年勅令第百十五號改正）

第十九條　砂糖消費稅法第四條第二項、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ（明治三十五年勅令第五十一號改正）（大正五年勅令第百十五號改正）

第二十條　前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、公賣財產ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ（明治四十三年勅令第八號改正）

第二十一條　公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條　砂糖消費稅法第四條第二項但書、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得（明治三十五年勅令第五十一號改正）（明治四十三年勅令第八號改正）（大正五年勅令第百十五號改正）

第二十三條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別シテ藏置スヘシ（明治四十三年勅令第八號改正）

第二十四條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ檢査ヲ受クヘシ（同上）

第二十五條　前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間內ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ（同上）

第二十五條ノ二　收稅官吏職務ノ爲內地移入糖ヲ積載スル船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ（大正三年勅令第三十四號追加）

第二十五條ノ三　收稅官吏ハ內地移入糖ヲ積載スル船舶ニ就キ內地移入糖又ハ之ニ關スル帳簿書類等ヲ檢査スルコトヲ得（同上）

收稅官吏必要ト認ムルトキハ內地移入糖ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第二十六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ（明治四十三年勅令第二百二十四號改正）

一　原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニアリテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又